

(様式第 10)

久大病 (管) 第 25 号  
令和元年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人久留米大学  
理事長 永田 見生

久留米大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法 (昭和 23 年法律第 205 号) 第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則 (昭和 23 年厚生省令第 50 号) 第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒830-0011 福岡県久留米市旭町67番地
氏 名	学校法人久留米大学 理事長 永田 見生

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

久留米大学病院
---------

3 所在の場所

〒830-0011 福岡県久留米市旭町67番地	電話 (0942) 35-3311
-------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科	2 消化器内科
5 神経内科	6 血液内科
9 感染症内科	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科
	3 循環器内科
	7 内分泌内科
	4 腎臓内科
	8 代謝内科
	11 リウマチ科
診療実績	
循環器内科は心臓・血管内科、神経内科は脳神経内科、血液内科は血液・腫瘍内科、内分泌内科及び代謝内科は内分泌・代謝・糖尿病内科、感染症内科は呼吸器内科及び感染制御科 (院内診療科)、アレルギー疾患内科は呼吸器内科、小児科、耳鼻いんこう科、皮膚科等、リウマチ科は膠原病内科 (院内診療科)、整形外科で診療を行っている。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していな

い診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1呼吸器外科      2消化器外科      3乳腺外科      4心臓外科 5血管外科      6心臓血管外科      7内分泌外科      8小児外科	
診療実績 乳腺外科及び内分泌外科は乳腺・内分泌外科（院内診療科）で診療を行っている。	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科      2小児科      3整形外科      4脳神経外科      5皮膚科      6泌尿器科      7産婦人科 8産科      9婦人科      10眼科      11耳鼻咽喉科      12放射線科      13放射線診断科 14放射線治療科      15麻酔科      16救急科
---

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科      2矯正歯科      3口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1形成外科      2リハビリテーション科      3病理診断科      4美容外科
---

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
53床	床	床	床	965床	1,018床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	524人	6人	524.9人	看護補助者	150人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	10人	0人	10人	理学療法士	26人	臨床検査技師	77人
薬剤師	68人	0人	68人	作業療法士	10人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	9人	その他	0人
助産師	47人	3人	49.4人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	1,012人	29人	1,030.9人	臨床工学士	25人	医療社会事業従事者	21人
准看護師	2人	0人	2人	栄 養 士	4人	その他の技術員	41人
歯科衛生士	4人	1人	4.5人	歯科技工士	1人	事務職員	171人
管理栄養士	12人	0人	12人	診療放射線技師	56人	その他の職員	44人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	41人	眼科専門医	15人
外科専門医	68人	耳鼻咽喉科専門医	13人
精神科専門医	13人	放射線科専門医	2人
小児科専門医	36人	脳神経外科専門医	15人
皮膚科専門医	10人	整形外科専門医	20人
泌尿器科専門医	13人	麻酔科専門医	15人
産婦人科専門医	22人	救急科専門医	15人
		合 計	298人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 八木 実 ) 任命年月日 平成29年4月1日

平成26年4月1日～平成28年9月30日 医薬品安全管理責任者  
 平成25年4月1日～ 医療安全管理対策委員会委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	817.5人	16.9人	834.4人
1日当たり平均外来患者数	1,718.6人	86.9人	1,805.5人
1日当たり平均調剤数	1,844.9剤		
必要医師数	188.1人		
必要歯科医師数	8人		
必要薬剤師数	28人		
必要(准)看護師数	482人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1546.99m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	61床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 483.43m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数 41床			
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 79.8m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	468.78m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) ※別紙1のとおり			
細菌検査室	198.36m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) ※別紙1のとおり			
病理検査室	274.10m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) ※別紙1のとおり			
病理解剖室	56.53m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) ※別紙1のとおり			
研究室	26018.13m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) パソコン			
講義室	1612.5m <sup>2</sup>	〃	室数 17室	収容定員 1,257人		
図書室	2838.18m <sup>2</sup>	〃	室数 6室	蔵書数 276,752冊程度		

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	84.9%	逆紹介率	76.4%
算出根拠	A: 紹介患者の数	18,806人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	18,476人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,726人		
	D: 初診の患者の数	24,168人		

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
古賀 和徳	産業医科大学 病院	○	医療安全の知識を持つ 医師	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
松野 修一	産業医科大学 病院		医療安全の知識を持つ 看護師	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
高橋 一久	産業医科大学 病院		医療安全の知識を持つ 臨床工学技士	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
平田 ナツ子			医療を受ける者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
公表の方法 病院ホームページへの掲載	

## 主 な 設 備

		機 器
化学検査室	生化学	グルコース(2台)
		グリコヘモグロビンHA-8182(2台)
		臨床化学自動分析装置 LABOSPECT008 $\alpha$ (緊急検査)
		臨床化学自動分析装置 LABOSPECT008 $\alpha$
		自動浸透圧測定装置オズモステーション
		呼気中13CO <sub>2</sub> 分析装置(POCONE ピロリ検査)
		ラピッドポイント500(2台) 血ガス
		自動分析装置ディメンション EXL200
		免疫
	全自動蛍光免疫測定装置ミュータスワコー i30	
	エンドトキシン、 $\beta$ -グルカン測定装置トキシノメーターMT-5500、拡張モジュール2台	
	ステーション	
	カテコールアミン分析計 HLC-725CA II	
	全自動化学発光酵素免疫測定システムルミパルスL2400	
	アーキテクトi2000 SR	
	コバス8000e801(2台)	
	一般	
		尿化学分析装置クリテック ノーバス
	凝固	HISCL-5000
		全自動血液凝固分析装置コアプレスタ(2台)
	輸血	全自動輸血検査装置オートビュー イノーバ
	輸血	全自動輸血検査装置オートビュー ビジョン
	細菌検査室	細菌検査
cobas 6800可動式×1式 cobas TaqMan×1式		
自動同定感受性検査装置 バイテック2コンパクト		
自動培養自動分析バクテックFX Stack400		
病理検査室	病理検査	密閉式自動固定包埋装置(VIP6)
		自動特殊染色装置(Ventana NX-SS System)
		自動免疫染色装置(Ventana BenchMark ULTRA)
		自動免疫染色装置(ライカボンドIII)
		自動HE染色装置(Ventana HE600)
		自動染色装置(サクラティッシュユテックDRS-2000)
病理解剖室		解剖台
		カメラ、モニター

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	15人
腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術	2人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
十二種類の腫瘍抗原ペプチドによるテーラーメイドのがんワクチン療法 ホルモン不応性再燃前立腺がん(ドセタキセルの投与が困難な者であって、HLA-A24が陽性であるものに係るものに限る。)	0人
リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法 特発性ネフローゼ症候群(当該疾病の症状が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、難治性頻回再発型又はステロイド依存性のものに限る。)	11人
経胎盤的抗不整脈薬投与療法 胎児頻脈性不整脈(胎児の心拍数が毎分百八十以上で持続する心房粗動又は上室性頻拍に限る。)	0人
自家骨髄単核球移植による下肢血管再生治療 バージャー病(従来の治療法に抵抗性を有するものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	0人
ニボルマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 進行再発非小細胞肺がん(ステージがⅢB期、ⅢC期若しくはⅣ期又は術後に再発したものであって、化学療法が行われたものに限る。)	2人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	経肛門吻合術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 直腸癌に対する超低位前方切除術や括約筋間直腸切除術、大腸全摘手術などの再建における経肛門吻合術			
医療技術名	消化管術後の諸機能検査	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 消化管の内圧検査、酸分泌機能検査			
医療技術名	ロボット支援下手術(大腸)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 ダビンチを用いた直腸切除術			
医療技術名	ロボット支援下手術(胃)	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要 ダビンチを用いた胃切除術			
医療技術名	ロボット支援下手術(呼吸器)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 ダビンチを用いた肺悪性腫瘍手術(肺葉切除術)			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術	取扱患者数	48人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下にて肝部分、Ⅱ区域、1区域、2区域および3区域以上の切除を行うもので、開腹肝切除に比較し患者の身体的侵襲が著しく軽減されるが、腹腔鏡下での実質臓器切除であり、術者の高度な解剖学的知識、技術習得が必要で施設基準が設けられている。			
医療技術名	腹腔鏡下膵体尾部切除	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 体壁破壊が少ない腹腔鏡下での膵体尾部の切除で、開腹切除に比べ患者の身体的侵襲は非常に少ない。手術適応等の治療方針の検討を高い見識を持って適切に実施することが求められており、施設基準が設けられている。			
医療技術名	重症外傷に対する初期診療、特にMT療法およびREBOAによる救急蘇生	取扱患者数	28人
当該医療技術の概要 重症外傷患者における最大の死因は制御困難な出血である。異型輸血を含む緊急大量輸血(MT)療法とともに、経皮的カテーテル下に大動脈閉鎖バルーンを用いて大動脈を遮断するREBOAは、致命的出血に対する救命のための高度な技術である。			
医療技術名	心肺停止蘇生後患者および重症頭部外傷患者に対する体温管理療法	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 心肺停止蘇生後や重症頭部外傷患者に対する脳保護を目的とした治療法である。高体温を回避し、正常体温ないしは軽度低体温を受傷後早期に導入し、復温期まで合併症を回避しつつ、きめ細やかな人工呼吸管理下の脳指向型の集中治療を施行する。			
医療技術名	体外循環式心肺蘇生法(ECPR)	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 通常の蘇生療法に反応しない心肺停止例に対する人工心肺装置を用いた蘇生技術である。神経学的に良好な予後、社会復帰を得るためには、導入に対する適切な判断力、low-flow time短縮のための戦略技術、出血等の合併症に対する知識と技術を必要とする。			
医療技術名	ドクターカー・ドクターヘリを用いた病院前救急診療	取扱患者数	551人
当該医療技術の概要			

救急医、看護師、救命救急士を含む医療スタッフによる救急医療が、病院前(救急現場)から開始されるシステムである。限られた情報と限られた医療機器・機材の中で行われる医療で、高い診断能力と救急蘇生技術、地域医療システムの熟知が必要である。

医療技術名	胎児異常に対する外科的胎児治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 胎児胸水および胎児下部尿路閉塞に対し、胎児-羊水腔シャントを行う。			

医療技術名	胎児頻脈性不整脈に対する胎児治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 胎児頻脈性不整脈に対し、経母体的に抗不整脈薬を投与することで治療を行う。			

医療技術名	腹腔鏡下広汎子宮全摘術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 子宮頸癌に対する広汎子宮全摘術を腹腔鏡下に行う。			

医療技術名	ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 子宮悪性腫瘍に対し、ロボット支援技術(Da Vinci Xi)を用いた手術を行う。			

医療技術名	内視鏡下副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 前頭洞炎に対する内視鏡下前頭洞単洞化手術である。以下の施設基準が必要である。 5年以上の耳鼻咽喉科の常勤医師(1名以上)とほかの耳鼻咽喉科の常勤医師、 5年以上の脳神経外科の常勤医師(1名以上)と眼科の常勤医師(1名以上)および 5例以上の内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型の経験を有する耳鼻咽喉科の常勤の医師が必要で 2015年に当院では施設基準を満たしている。			

医療技術名	経外耳道的内視鏡下耳科手術(TEES)	取扱患者数	69人
当該医療技術の概要 経外耳道的内視鏡下耳科手術(transcanal endoscopic ear surgery: TEES)は、 耳科手術のほとんどのプロセスを内視鏡下で行う低侵襲手術であり、ハイビジョン画質(Full HD)の3CCDカメラを 搭載した内視鏡と精細で高解像度な細径内視鏡の出現により、近年国内外で急速に普及しつつある。			

医療技術名	頭頸部癌再建術、頭蓋底手術	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 形成外科、食道外科と再建チームを編成し、頭頸部癌に対する拡大切除後の再建術を行っている。 また、脳神経外科と協力し頭蓋底部に浸潤する腫瘍の一塊切除を目的とした頭蓋底手術を行っている。 これらの手術は高度な技術、またチーム医療が不可欠であり、特定機能病院として高度な医療を提供していると判断する。			

医療技術名	内視鏡下輪状咽頭筋切断術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 嚥下機能改善手術の一つである輪状咽頭筋切断術を経口法によって施行し嚥下障害を改善する術式である。 下咽頭憩室鏡と手術用顕微鏡を使用し、食道入口部を展開する操作により輪状咽頭筋隆起がはっきりと区別できるため、 従来の外切開法に比べて低侵襲に行える長所があり、近年国内外で普及してきている。			

医療技術名	声帯内自家脂肪注入術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 一側声帯麻痺など発声時の声門閉鎖不全に対する手術で、脂肪組織を採取し精製した後に直達喉頭鏡下に 声帯内に脂肪を注射する。術後に嚔声や嚥下障害の改善が期待出来る術式であり、近年普及して来た術式である。			

医療技術名	ADHD児童へのスマートリートメントプログラム	取扱患者数	316人
当該医療技術の概要 注意欠如多動症の有効な治療法は、薬物療法と行動療法であるが、行動療法を用いた包括的治療法はわが国では 普及していない。 スマートリートメントプログラムは、米国で開発されたエビデンスに基づく行動療法を組み合わせた夏季集中プログラムで、 医療・心理・教育の専門家と大学生が多職種連携して実践している。既に15年間の実績があり、316名が治療を受けた。 行動や脳認知機能の改善を認め、国内外に成果を発信している。北米以外での実施は福岡県久留米市が最初である。			

医療技術名	ミトコンドリア脳筋症(MELAS)に対するL-アルギニン治療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 ミトコンドリア脳筋症の一病型であり脳卒中様発作を主徴とする難病MELASの治療については、世界的にみて有効な治療法は見いだされていない。L-アルギニン療法は、MELASの急性期治療および発作寛解期の脳卒中様発作の予防治療として注目されており、現在は医師主導治験が終了し、L-アルギニンの承認申請手続きを行う予定である。			
医療技術名	ミトコンドリア脳筋症の遺伝子診断	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 臨床的にミトコンドリア脳筋症を疑われた症例のミトコンドリアDNAの検索依頼を受け、久留米大学医学部小児科の研究室でDNAを分離し、点変異の解析および、16.6kbのミトコンドリアDNAの全塩基解析を行っている。			
医療技術名	ミトコンドリア病のスクリーニングを目的としたFGF21とGDF15の測定	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 ミトコンドリア脳筋症の診断は非常に難しいが、我々はミトコンドリア病の診断・重症度判定のバイオマーカーとしてGDF15が有用であることを発見し報告した。この評価法を用い、ミトコンドリア病が疑われる患者の検体でGDF15並びにFGF21の測定を行って臨床的な貢献を行っている。測定は全国サービスとして行っている。			
医療技術名	低酸素療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 肺血流増多型の心不全を呈している新生児に対して低酸素療法を行うことにより、肺血管抵抗を増強させ手術待機を可能にする。			
医療技術名	脳保護を目的とした低体温療法	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 体温を軽度低体温に維持することで心肺停止蘇生後や重症頭部外傷での脳保護をねらう医療技術。導入期・維持期・復温期を通して沈静下に人工呼吸器管理・循環管理を行うため、極めの細かい集中治療の装置とマンパワーを必要とする。			
医療技術名	正中部巨大脳腫瘍に対する経鼻・開頭同時手術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 視交叉の下方や脳幹の腹側に進展する腫瘍は経鼻内視鏡手術が有用な反面、頭蓋内で前方や外側に進展する腫瘍に対しては開頭手術が優る。同時に手術を行うことでお互いの死角が担保され、摘出度を上げ残存腫瘍からの出血を予防する。			
医療技術名	悪性脳腫瘍に対する光線力学療(PDT)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 がん集積性を示す光感受性物質を予め患者に投与しておき、術中腫瘍摘出腔に術中レーザー光を照射することで悪性脳腫瘍の術後再発予防を期待する治療。放射線治療後の再発にも使用可能であり、専用の照射装置が必要であるため施行可能な施設は限られる。			
医療技術名	ロボット支援前立腺悪性腫瘍手術	取扱患者数	62人
当該医療技術の概要 限局性前立腺癌に対する主たる根治治療法として従来の開腹あるいは腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術に比較してda Vinciシステムの利用により、さらに精密な手術操作が可能となり、結果として出血量の低減やがん根治性の向上、術後機能(勃起、尿禁制)維持の改善が期待される術式である。			
医療技術名	尿管鏡による上部尿路腫瘍の診断と治療	取扱患者数	47人
当該医療技術の概要 診断がしばしば困難とされる上部尿路腫瘍に対し、細径尿管鏡を用いた組織診断と適応症例に対するレーザー切除術を施行している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	32人
当該医療技術の概要 腹腔鏡手術は開腹手術に比して低侵襲手術であるが、特に腹腔鏡下腎部分切除術では高度な技術が必要であり、術後の腎機能に影響を与える阻血時間(腫瘍切除のために腎動脈を遮断する時間)が延長される。ロボット支援手術は、腹腔鏡手術では困難であった切除・縫合が正確かつ迅速に行えるため阻血時間が短縮され、術後の合併症も軽減される。また腹腔鏡手術では困難であった位置や大きさの腫瘍も切除可能となり、手術適応が拡大すると考えられている。			
医療技術名	肩関節周囲炎による慢性疼痛に関するカテーテル治療	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要			

肩関節周囲炎による激しい痛みが接続する場合に、周囲に血管増生がおこり、それを寒栓することで痛みを軽減を得る治療法。日本で開発された治療法。少数の施設のみで施行されているものである。

医療技術名	造血幹細胞移植	取扱患者数	33人
当該医療技術の概要			
難治性の造血器腫瘍および造血不全に対する根治治療としての造血細胞移植			
自家移植21件 同種移植12件			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	6	56	ベーチェット病	141
2	筋萎縮性側索硬化症	35	57	特発性拡張型心筋症	130
3	脊髄性筋萎縮症	19	58	肥大型心筋症	268
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	2
5	進行性核上性麻痺	22	60	再生不良性貧血	95
6	パーキンソン病	573	61	自己免疫性溶血性貧血	27
7	大脳皮質基底核変性症	14	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	186
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	4
10	シャルコー・マリー・トゥース病	18	65	原発性免疫不全症候群	8
11	重症筋無力症	183	66	IgA腎症	246
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	110
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	122	68	黄色靱帯骨化症	135
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	44	69	後縦靱帯骨化症	333
15	封入体筋炎	4	70	広範脊柱管狭窄症	8
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	18
17	多系統萎縮症	14	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	74	73	下垂体性TSH分泌亢進症	3
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	3	75	クッシング病	16
21	ミトコンドリア病	23	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	88	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	1
24	亜急性硬化性全脳炎	1	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	1
26	HTLV-1関連脊髄症	19	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	10	83	アジソン病	12
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	297
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	141
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	162
32	自己食空腔性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	2
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	32
34	神経線維腫症	49	89	リンパ管筋腫症	8
35	天疱瘡	232	90	網膜色素変性症	75
36	表皮水疱症	13	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	16	92	特発性門脈圧亢進症	9
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	13	93	原発性胆汁性肝硬変	176
39	中毒性表皮壊死症	2	94	原発性硬化性胆管炎	12
40	高安動脈炎	15	95	自己免疫性肝炎	158
41	巨細胞性動脈炎	14	96	クローン病	163
42	結節性多発動脈炎	23	97	潰瘍性大腸炎	433
43	顕微鏡的多発血管炎	55	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	82	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	30	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	19	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	45	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	2
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	GFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	377	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	265	105	チャージ症候群	4
51	全身性強皮症	48	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
52	混合性結合組織病	79	107	若年性特発性関節炎	30
53	シェーグレン症候群	485	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人ステル病	39	109	非典型溶血性尿毒症症候群	2
55	再発性多発軟骨炎	10	110	ブラウ症候群	4

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
14	先天性ミオパチー	161	家族性良性慢性天疱瘡	5
1	マリネスコ・シェーグレン症候群	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	149
35	筋ジストロフィー	163	特発性後天性全身性無汗症	2
0	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	164	眼皮膚白皮症	2
0	遺伝性周期性四肢麻痺	165	肥厚性皮膚骨膜炎	1
0	アトピー性脊髄炎	166	弾性線維性仮性黄色腫	5
27	脊髄空洞症	167	マルファン症候群	41
18	脊髄髄膜瘤	168	エーラス・ダンロス症候群	3
1	アイザックス症候群	169	メンケス病	1
1	遺伝性ジストニア	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
0	神経フェリチン症	171	ウィルソン病	29
0	脳表ヘモジデリン沈着症	172	低ホスファターゼ症	2
0	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	173	VATER症候群	1
0	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈瘤	174	那須・ハコラ病	0
0	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	175	ウィーバー症候群	0
0	ペリー症候群	176	コフィン・ローリー症候群	0
0	前頭側頭葉変性症	177	ジュベール症候群関連疾患	0
1	ピッカースタッフ脳幹脳炎	178	モワット・ウィルソン症候群	0
2	痙攣重積型(二相性)急性脳症	179	ウィリアムズ症候群	8
0	先天性無痛無汗症	180	ATR-X症候群	0
0	アレキサンダー病	181	クルーゾン症候群	3
0	先天性核上性球麻痺	182	アペール症候群	2
1	メビウス症候群	183	ファイファー症候群	2
1	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	184	アントレー・ピクスラー症候群	1
1	アイカルディ症候群	185	コフィン・シリス症候群	0
1	片側巨脳症	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
0	限局性皮質異形成	187	歌舞伎症候群	4
0	神経細胞移動異常症	188	多脾症候群	2
0	先天性大脳白質形成不全症	189	無脾症候群	5
1	ドラベ症候群	190	鰓耳腎症候群	0
0	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	191	ウェルナー症候群	1
1	ミオクロニー欠伸てんかん	192	コケイン症候群	1
1	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	193	ブラダー・ウィリ症候群	14
36	レノックス・ガストー症候群	194	ソトス症候群	1
6	ウエスト症候群	195	ヌーナン症候群	12
0	大田原症候群	196	ヤング・シンブソン症候群	1
0	早期ミオクロニー脳症	197	1p36欠失症候群	0
0	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	198	4p欠失症候群	2
0	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	199	5p欠失症候群	2
0	環状20番染色体症候群	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	1
1	ラスムッセン脳炎	201	アンジェルマン症候群	5
0	PCDH19関連症候群	202	スミス・マジニス症候群	1
0	難治癲回部分発作重積型急性脳炎	203	22q11.2欠失症候群	11
0	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	204	エマヌエル症候群	0
0	ランドウ・クレフナー症候群	205	脆弱X症候群関連疾患	0
52	レット症候群	206	脆弱X症候群	0
13	スタージ・ウェーバー症候群	207	総動脈幹遺残症	1
23	結節性硬化症	208	修正大血管転位症	12
3	色素性乾皮症	209	完全大血管転位症	11
7	先天性魚鱗癬	210	単心室症	32

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	4	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	21	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	113	263	脳腫黄色腫症	2
216	両大血管右室起始症	32	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	4	265	脂肪萎縮症	3
218	アルポート症候群	4	266	家族性地中海熱	56
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	72	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	2	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクト症候群	6
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	16
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	1	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	3
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	11	274	骨形成不全症	23
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	10
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病	4
230	肺胞低換気症候群	4	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口咽頭びまん性病変)	1
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	5
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノニー・ウェーバー症候群	3
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	275	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	4	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	2
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	3
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	1	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	24	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	3
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	5	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	9	293	総排泄腔遺残	7
246	メチルマロン酸血症	12	294	先天性横隔膜ヘルニア	7
247	イソ吉草酸血症	3	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	1	296	胆道閉鎖症	26
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	3
250	グルタル酸血症2型	1	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	37	299	囊胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	57
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	12
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	2
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	1	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	3
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	51

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナパン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	3	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	2
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	2
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	3
318	シトリン欠損症	14	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	6
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	精神科救急搬送患者地域連携紹介加算
歯科外来診療環境体制加算 2	後発医薬品使用体制加算2
歯科診療特別対応連携加算	病棟薬剤業務実施加算1
特定機能病院入院基本料	データ提出加算
特定機能病院入院基本料 ADL維持向上等体制加算(注10)	入退院支援加算1
超急性期脳卒中加算	入退院支援加算1に伴う地域連携診療計画加算
診療録管理体制加算2	入退院支援加算1に伴う入院時支援加算(注7)
医師事務作業補助体制加算1(25対1)	認知症ケア加算1
急性期看護補助体制加算25:1(看護補助者5割以上)	精神疾患診療体制加算
看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	精神科急性期医師配置加算
療養環境加算	救命救急入院料1
重症者等療養環境特別加算	救命救急入院料4
無菌治療室管理加算1	特定集中治療室管理料1
無菌治療室管理加算2	特定集中治療室管理料1 早期離床・リハビリテーション加算(注4)
緩和ケア診療加算	ハイケアユニット入院医療管理料1
精神科身体合併症管理加算	総合周産期特定集中治療室管理料
精神科リエゾンチーム加算	新生児治療回復室入院医療管理料
摂食障害入院医療管理加算	小児入院医療管理料1
栄養サポートチーム加算	緩和ケア病棟入院料2
医療安全対策加算1	精神科急性期治療病棟入院料1
感染防止対策加算1	
感染防止対策加算1 抗菌薬適正使用支援加算(注3)	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊娠管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
高度難聴指導管理料	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料 遠隔モニタリング加算(注2)
慢性維持透析患者外来医学管理料 腎代替療法実績加算(注3)	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
糖尿病合併症管理料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
がん性疼痛緩和指導管理料	持続血糖測定器加算
がん患者指導管理料イ	遺伝学的検査
がん患者指導管理料ロ	骨髓微小残存病変量測定
がん患者指導管理料ハ	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
外来緩和ケア管理料	検体検査管理加算(Ⅰ)
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	検体検査管理加算(Ⅳ)
糖尿病透析予防指導管理料	国際標準検査管理加算
乳腺炎重症化予防・ケア指導料	遺伝カウンセリング加算
外来放射線照射診療料	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
療養・就労両立支援指導料 相談体制充実加算(注2)	胎児心エコー法
がん治療連携計画策定料	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
ハイリスク妊産婦連携指導料1	ヘッドアップティルト試験
ハイリスク妊産婦連携指導料2	人工腎臓 1 慢性維持透析を行った場合1
肝炎インターフェロン治療計画料	人工腎臓 ロ 導入期加算2(注2)
薬剤管理指導料	人工腎臓 透析液水質確保加算(注9)
検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	人工腎臓 慢性維持透析濾過加算(注13)
医療機器安全管理料1	人工臓器検査
医療機器安全管理料2	皮下連続式グルコース測定
医療機器安全管理料(歯科)	長期継続頭蓋内脳波検査
歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算	神経学的検査
歯科治療時医療管理料	補聴器適合検査
歯科疾患在宅療養管理料の注4に掲げる在宅総合医療管理加算	ロービション検査判断料
在宅患者歯科治療時医療管理料	小児食物アレルギー負荷検査

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
内服・点滴誘発試験	認知療法・認知行動療法1
センチネルリンパ節生検(単独)	精神科ショート・ケア「大規模なもの」
CT透視下気管支鏡検査加算	精神科デイ・ケア「大規模なもの」
有床義歯咀嚼機能検査 2 有床義歯咀嚼機能検査2 ロ 咬合圧測定のみを行う場合	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症 治療指導管理料に限る。)
咬合圧検査	医療保護入院等診療料
精密触覚機能検査	エタノールの局所注入(甲状腺)
画像診断管理加算2	エタノールの局所注入(副甲状腺)
遠隔画像診断	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影	手術用顕微鏡加算
CT撮影及びMRI撮影	口腔粘膜処置
冠動脈CT撮影加算	CAD/CAM冠
外傷全身CT加算	歯科技工加算
心臓MRI撮影加算	皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算)
乳房MRI撮影加算	組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術) の場合に限る。)
小児鎮静下MRI撮影加算	原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算(頭蓋内腫瘍摘出術 その他のもの 注2)
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
外来化学療法加算1	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激 装置交換術
無菌製剤処理料	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
心大血管疾患リハビリテーション料(I)	仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	羊膜移植術
運動器リハビリテーション料(I)	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのある もの))
呼吸器リハビリテーション料(I)	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるも の)
がん患者リハビリテーション料	網膜再建術
リンパ浮腫複合的治療料	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨 導補聴器交換術
歯科口腔リハビリテーション料2	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
精神科作業療法	上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)、下顎骨形成術 (骨移動を伴う場合に限る。)

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)(歯科)	腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)
乳がんセンチネルリンパ節加算1(併用法)	生体部分肝移植術
乳がんセンチネルリンパ節加算2(単独法)	腹腔鏡下腓腫瘍摘出術
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
経カテーテル大動脈弁置換術	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
胸腔鏡下弁形成術	同種死体腎移植術
胸腔鏡下弁置換術	生体腎移植術
経皮的中隔心筋焼灼術	膀胱水圧拡張術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(電池交換を含む。)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
ペースメーカー移植術 リードレスペースメーカーの場合	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡下手術用支援機器を用いる場合)
経皮的循環補助療法(ポンプカテーテルを用いたもの)	胎児胸腔・羊水腔シャント術
補助人工心臓	胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
植込型補助人工心臓(非拍動流型)	輸血管管理料 I
腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	輸血適正使用加算
腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	自己生体組織接着剤作成術
腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	人工肛門・人工膀胱造設前処置加算
胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
体外衝撃波胆石破砕術	歯周組織再生誘導手術
腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)	広範囲顎骨支持型装置埋入手術



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年6回(久留米大学CPC)
剖検の状況	剖検症例数 23例 / 剖検率 5.9%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	食道癌におけるTCRレパトア解析	主藤 朝也	外科	100,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
2	潰瘍性大腸炎を起点とする炎症促進性因子を介した造腫瘍機械の解明と臨床応用	衣笠 哲史	外科	1,690,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
3	脂肪肝細胞移植による肛門機能改善に関する研究	藤田 文彦	外科	1,100,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
4	増殖組織特徴的遺伝子発現を基盤とした個別化「硝子体内分子切除」治療概念の確立	吉田 茂生	眼科	3,400,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
5	Beyond VEGFのアンメットニーズ:線維化と虚血へのマクロファージ教育療法	吉田 茂生	眼科	50,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
6	網膜黄斑浮腫への硝子体中遊離ATPの関与とBBG投与による治療戦略	吉田 茂生	眼科	200,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
7	自然炎症局所制御による網膜前駆細胞誘導	吉田 茂生	眼科	200,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(B)
8	IL-18, IL38制御による炎症性肺疾患の治療	星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	910,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
9	パーキンソン病の簡易画像バイオマーカーの開発	谷脇 孝恭	呼吸器・神経・膠原病内科	1,560,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
10	膠原病疾患における好中球NETsの役割の検討と治療への応用	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	1,560,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
11	自己炎症性疾患とその類縁疾患の全国診療体制整備、重症度分類、診療ガイドライン確立に関する研究	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	500,000	補 難治性疾患等政策研究事業(厚生労働省)
12	多面的解析による努力性呼吸困難の機序解明と新規バイオマーカーの開発	川山 智隆	呼吸器・神経・膠原病内科	1,820,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
13	特発性肺線維症の新規バイオマーカー;ペリオスチンの研究	岡元 昌樹	呼吸器・神経・膠原病内科	1,690,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
14	ドライバー遺伝子変異依存肺癌における免疫逃避機構の解明と治療戦略	東 公一	呼吸器・神経・膠原病内科	1,170,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
15	ネオアンチゲン特異的な抗腫瘍免疫応答の解析と個別化がん免疫治療への応用	東 公一	呼吸器・神経・膠原病内科	650,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(B)
16	CD163陽性M2マクロファージの関節炎における機能解析と治療への応用	海江田 信二郎	呼吸器・神経・膠原病内科	1,170,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
17	mRNA搭載ナノキャリアを用いたパーキンソン病モデルのドパミン神経再生治療研究	貴田 浩志	呼吸器・神経・膠原病内科	1,040,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
18	吸入薬服薬アドヒアランスの新たな評価法の開発と服薬遵守向上システムの構築	今村 陽平	呼吸器・神経・膠原病内科	1,820,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
19	リンパ節転移リスクを有する子宮体がんに対する標準的リンパ節郭清確立のための多施設共同臨床試験	牛嶋 公生	産婦人科	780,000	委 革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
20	羊水細菌叢の網羅的解析による早産予防治療戦略構築のための基礎的研究	吉里 俊幸	産婦人科	1,560,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
21	新・光-電子相関顕微鏡法による異常形態ミトコンドリア形成過程と微細構造変化の解明	宮園 佳宏	歯科口腔医療センター	900,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
22	チロシンキナーゼ阻害分子 Sprouty による口腔癌リンパ節転移制御機構の解明	武富 幸治	歯科口腔医療センター	1,200,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
23	声帯粘膜の組織幹細胞システムと幹細胞ニッチ制御の解明	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,000,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
24	喉頭乳頭腫における宿主局所免疫応答の解明	栗田 卓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	400,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)

25	脂肪幹細胞を用いた声帯再生の基礎研究	梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	400,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
26	3D高解像マノメリーを用いた食道入口部機能不全に対する低侵襲手術法の確立	千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	600,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
27	口腔粘膜上皮シートを用いた経口的移植手技による傷害声帯治療法の確立	深堀 光緒子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	500,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
28	移植後安定性を考慮した馬蹄形軟骨再生による気管再建法の確立	末吉 慎太郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	600,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
29	発達障害への包括的治療法によって母親養育レジリエンスは改善するか?	山下 裕史朗	小児科	590,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
30	発達障害の治療法の確立をめざすトランスレーショナルリサーチ	山下 裕史朗	小児科	1,000,000	補	精神・神経疾患研究開発費(国立精神・神経医療研究センター)
31	生体リズムに着目した発達障害の解析	山下 裕史朗	小児科	2,500,000	補	理化学研究所共同プロジェクト
32	唾液コルチゾール・MHPGは神経発達症診断・治療評価に有用か?	山下 裕史朗	小児科	1,040,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
33	母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究	永光 信一郎	小児科	500,000	補	成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(厚生労働省)
34	望まれる子どもの睡眠習慣の啓発 -バイオマーカーを用いた科学的実証研究-	永光 信一郎	小児科	780,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
35	親子の心の診療を実施するための人材育成方法と診療ガイドライン・保健指導プログラムの作成に関する研究	永光 信一郎	小児科	4,496,000	補	成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(厚生労働省)
36	身体的・精神的・社会的(biopsychosocial)に健やかな子どもの発育を促すための切れ目のない保健・医療体制提供のための研究	永光 信一郎	小児科	500,000	補	成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(厚生労働省)
37	思春期健診およびモバイルテクノロジーによる思春期のヘルスプロモーション	永光 信一郎	小児科	5,980,000	委	日本医療研究開発費(AMED)
38	思春期心身症に対する不登校予防のための教育・医学連携の学校健診システムの構築	永光 信一郎	小児科	130,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
39	レット症候群のグレリン投与による治療メカニズムの解明	弓削 康太郎	小児科	1,300,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
40	ICTを活用した小児睡眠障害への予防介入・認知行動療法の開発	石井 隆大	小児科	2,470,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
41	ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウム治療法の開発研究-試薬からの希少疾病治療薬開発の試み-	古賀 靖敏	小児科	90,955,000	委	難治性疾患実用化研究事業(AMED)
42	GDF15を用いたミトコンドリア病・メタボリック症候群に対する創薬の基盤研究	古賀 靖敏	小児科	1,820,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
43	ミトコンドリア病の新規バイオマーカーGDF15とFGF21の交絡因子の解明	八ツ賀 秀一	小児科	1,430,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
44	オキシステロールは小児急性肝不全のバイオマーカーとして有用か?	水落 建輝 (研究代表者)	小児科	2,080,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
45	胆道閉鎖症診療ガイドライン改定を目指したエビデンス創出研究	水落 建輝 (研究代表者)	小児科	1,040,000	委	難治性疾患実用化研究事業(AMED)
46	小児期のウイルス性肝炎の病態解明と治療の標準化に関する研究	水落 建輝 (研究代表者)	小児科	330,000	委	肝炎等克服実用化研究事業(AMED)



47	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症2型に対する世界初・日本発の内科的治療法の確立に向けたブフェニールの医薬品開発研究	水落 建輝 (研究代表者)	小児科	200,000	委	難治性疾患実用化研究事業 (AMED)
48	小児期から移行期・成人期を包括する希少難治性慢性消化器疾患の医療政策に関する研究班	水落 建輝 (研究代表者)	小児科	100,000	補	難治性疾患等政策研究事業(厚生労働省)
49	肝炎ウイルス感染状況と感染後の長期経過に関する研究	鳥村 拓司	消化器内科	1,000,000	補	肝炎等克服政策研究事業(厚生労働省)
50	非癌部肝組織におけるDNAメチル化異常の網羅的解析による肝発癌予測法の開発	鳥村 拓司	消化器内科	1,170,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
51	C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者に対するG-CSF動員自家末梢血CD34陽性細胞の経肝動脈移植に関する臨床研究	鳥村 拓司	消化器内科	56,589,000	補	再生医療実用化研究事業(AMED)
52	高ずり応力を伴う循環器難病に随伴する出血性合併症予知法の開発	鳥村 拓司	消化器内科	130,000	補	難治性疾患実用化研究事業 (AMED)
53	地域に応じた肝炎ウイルス診療連携体制構築の立案に資する研究(福岡県における)	鳥村 拓司	消化器内科	1,000,000	補	肝炎等克服緊急対策研究事業(厚生労働省)
54	インフリキシマブ治療抵抗性クローン病患者を対象としたアドレノメデュリン製剤による医師主導試験の実施	光山 慶一	消化器内科	650,000	補	橋渡し研究戦略的推進プログラム (AMED)
55	潰瘍性大腸炎合併症における粘膜付随細菌叢の網羅的解析	光山 慶一	消化器内科	1,300,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
56	TCF-4/CLAUDIN-2/HES1 軸による肝癌幹細胞用様質制御	古賀 浩徳	消化器内科	1,560,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
57	肝炎ウイルス検査受検から受診、受療に至る肝炎対策の効果検証と拡充に関する研究	井出 達也	消化器内科	500,000	補	肝炎等克服緊急対策研究事業(厚生労働省)
58	職域等も含めた肝炎ウイルス検査受検率向上と陽性者の効果的なフォローアップシステムの開発・実用化に向けた研究	井出 達也	消化器内科	400,000	補	肝炎等克服緊急対策研究事業(厚生労働省)
59	肝癌および非アルコール性肝炎に対する生体内抗酸化因子による治療法の開発	吉田 隆文	消化器内科	520,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
60	肝硬変患者における筋肉-肝臓連関の免疫学的解明に基づく治療戦略の構築	川口 巧	消化器内科	2,600,000	補	肝炎等克服実用化研究事業(肝炎等克服緊急対策研究事業) (AMED)
61	運動誘発性筋ホルモン irisin による NASH 関連肝癌抑制効果の検討	川口 巧	消化器内科	1,538,740	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
62	ウイルス性肝疾患を含む代謝関連肝がん発生の病態解明に関する研究	川口 巧	消化器内科	3,900,000	補	肝炎等克服実用化研究事業(肝炎等克服緊急対策研究事業) (AMED)
63	腫瘍血管特異的なノンコーディングRNAを標的とした新規血管新生抑制治療の確立	岩本 英希	消化器内科	1,300,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
64	大動脈解離の革新的な治療法開発:mTOR経路を標的とした病態制御戦略	青木 浩樹	心臓・血管内科	4,810,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(B)
65	一般住民における腸内フローラと動脈硬化性疾患の関連についての疫学的検討	深水 亜子	心臓・血管内科	650,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
66	心筋虚血再灌流障害におけるプレコンディショニングとSOCS3欠損の役割の検討	永田 隆信	心臓・血管内科	1,560,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
67	大動脈解離における血管平滑筋STAT3の保護的役割の解明	平方 佐季	心臓・血管内科	780,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
68	心筋リモデリングと心不全における非心室心筋細胞のjak/SOCS系の役割	安川 秀雄	心臓・血管内科	1,690,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
69	歯周炎症が動脈硬化におよぼす影響の解明～FDG-PET/CTを用いた検討～	田原 宣広	心臓・血管内科	1,560,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
70	免疫制御分子Sykを標的とした大動脈解離の病態解明と増悪阻止療法の開発	古荘 文	心臓・血管内科	1,560,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
71	新たな心筋保護サイトカインIL-22の梗塞後左室リモデリングにおける役割	野原 正一郎	心臓・血管内科	2,080,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)

72	コーヒーの日常的な消費が動脈硬化と認知機能に及ぼす影響～20年の疫学的縦断研究～	野原 夢	心臓・血管内科	910,000	補	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
73	慢性血栓塞栓性肺高血圧症の発症機序の解明～慢性肺血栓塞栓症の作成と解析	杵山 陽一	心臓・血管内科	2,080,000	補	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
74	心筋代謝から評価する肺高血圧症の病態～治療への応用～	中村 知久	心臓・血管内科	1,690,000	補	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
75	超音波制御ウルトラファインバブルで組織標的性を高める薬剤性血管新生療法の開発	佐々木 健一郎	心臓・血管内科	910,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
76	住民検診の結果から考察する脂肪酸結合タンパクのメタボリック症候群への臨床応用	榎本 美佳	心臓・血管内科	2,990,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
77	大動脈解離における組織破壊の増幅機構を解明する:ATP分泌から見た病態解明	大野 聡子	心臓・血管内科	1,950,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
78	塩応答性分子SIKを標的とした大動脈解離病態解明	西田 憲史	心臓・血管内科	1,430,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
79	アルドステロン高値が認知機能低下の予知因子となる	熊谷 英太	心臓・血管内科	3,380,000	補	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
80	血清シタチンC・微量アルブミン尿と認知症発症の前向き疫学研究	古野 晶子	心臓・血管内科	1,950,000	補	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
81	身体活動および座位時間と総死亡に関する前向きコホート研究	阪上 暁子	心臓・血管内科	2,730,000	補	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
82	画期的なドキシソリン心筋症抑制方法～間欠的下肢虚血(RIC)の持つ可能性～	下園 弘達	心臓・血管内科	2,080,000	補	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
83	左室駆出率が保たれた心不全の新しいパラダイム:血管平滑筋細胞を中心とした病態解明	柴田 龍宏	心臓・血管内科	2,080,000	補	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
84	接着斑シグナル分子FAKによる大動脈解離の病態解明と画期的な薬物治療の開発	眞島 涼平	心臓・血管内科	2,080,000	補	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
85	虚血に対する心筋保護における非心筋細胞の役割 STAT3シグナル制御の視点から	楊井 俊之	心臓・血管内科	2,080,000	補	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
86	低栄養は総死亡および癌死亡の予測因子であるか?～健康者の20年間追跡調査より～	足達 寿	心臓・血管内科	2,000,000	補	ダノン健康栄養財団(平成30年学術研究助成)
87	左室駆出率が保たれた心不全(HFpEF)の右心機能に着目した新しい病態の解明～肥大心での検討～	本多 亮博	心臓・血管内科	1,000,000	補	平成30年度第38回研究助成(公益財団法人 木村記念循環器財団)
88	冠動脈ステント留置後の炎症とステント内血栓や新生動脈硬化との関連解明	戸次 宗久	心臓・血管内科	1,000,000	補	平成30年度第38回研究助成(公益財団法人 木村記念循環器財団)
89	担癌患者における血管炎症と心血管イベントの関連～FDG-PETを用いた新しい予後規定因子の解析～	緒方 詔子	心臓・血管内科	1,000,000	補	平成30年度第38回研究助成(公益財団法人 木村記念循環器財団)
90	メタボリック症候群における脳腎関連メカニズム～AGEs-RAGE系の役割	深水 圭	腎臓内科	910,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
91	高血圧腎障害に対する新規治療薬RAGE-DNAアプタマーの開発とメカニズムの解明	柴田 了	腎臓内科	910,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
92	RAGE-aptamerのループ腎炎に対する腎保護作用とそのメカニズムの解明	田口 颯正	腎臓内科	2,080,000	補	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
93	腹膜透析患者のカルニチン補充療法とAGEsを介した腹膜機能障害抑制効果の解明	伊藤 佐久耶	腎臓内科	2,210,000	補	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
94	ADMAを標的とした腎性貧血治療薬の探索	中山 陽介	腎臓内科	4,747,600	委	創薬支援推進事業(AMED)
95	CO中毒による高次脳機能障害患者の社会復帰を目的とした包括的リハビリテーションに関する研究	松瀬 博夫	整形外科	9,652,000	補	労災疾病臨床研究事業費(厚生労働省)
96	脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	佐藤 公昭	整形外科	250,000	補	難治性疾患等政策研究事業(厚生労働省)

97	植物由来のバイオ接着剤を用いた骨折治療への応用	白濱 正博	整形外科	1,690,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
98	高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	平岡 弘二	整形外科	299,000	委	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
99	独自開発の革新的な増殖制御型アデノウイルスの肉腫への承認申請を目指した医師主導治験	平岡 弘二	整形外科	2,000,000	委	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
100	腱板断裂モデルを用いた間葉系幹細胞移植の治療効果	後藤 昌史	整形外科	1,430,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
101	非アルコール性脂肪肝に対する表面電気刺激の効果の検討	橋田 竜騎	整形外科	1,049,565	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
102	社会機能/QOL改善と出口戦略を見据えた睡眠障害のクリニカルパスの開発	内村 直尚	精神神経科	1,250,000	補	精神・神経疾患研究開発費(国立精神・神経医療研究センター)
103	精神生理学的多面的評価による高齢者及び認知症患者の運転安全性評価	小路 純央	精神神経科	650,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
104	地域住民における、 $\alpha$ シヌクレインパター先行症状であるレム睡眠行動障害の実態調査(RED-Echigoyuzawa study)一病態と臨床的意義について	竹内 暢	精神神経科	2,000,000	補	第30回地域保健医療に関する研究研究助成((公社)地域医療振興協会)
105	トラウマへの気づきを高める“人-地域-社会”によるケアシステムの構築	大江 美佐里	精神神経科	1,306,500	委	戦略的創造研究推進事業(国立研究開発法人科学技術振興機構)
106	神経症圏患者への短期心理教育治療パッケージの効果検証	大江 美佐里	精神神経科	300,000	委	平成30年度研究活動助成金((公財)メンタルヘルス岡本記念財団)
107	ドーパミンD1シグナルを抑制して薬物乱用を制御する治療法開発	上松 謙	精神神経科	1,300,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
108	内科診療所受診者を対象に初診時に実施するうつ状態のリスク評価の有効性	藤枝 恵	精神神経科	1,820,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
109	内科診療所受診者における自殺予防に関する疫学研究	藤枝 恵	精神神経科	838,810	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
110	自覚的認識に注目した嗜癖問題の包括的理解と臨床的介入に関する研究	石田 哲也	精神神経科	1,300,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
111	患者レジストリを活用した難治性クッシング症候群及びサブクリニカルクッシング症候群の病態解明と11 $\beta$ -HSD1阻害剤の臨床開発	野村 政壽	内分泌代謝内科	44,987,720	委	臨床研究・治験推進研究事業(AMED)
112	エネルギー代謝と慢性炎症を制御するミトコンドリアダイナミクス	野村 政壽	内分泌代謝内科	1,706,731	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(B)
113	肥満者や2型糖尿病患者に見られる意志力低下とそのメカニズムの解明	田尻 祐司	内分泌代謝内科	1,141,567	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
114	生活習慣病における自律神経活動の特徴とそれに関連する因子の検討	岩田 慎平	内分泌代謝内科	1,334,190	補	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
115	ポストフリーラジカルをターゲットにした新規脳虚血治療の開発	森岡 基浩	脳神経外科	1,300,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
116	多様なエピジェネティクス異常に基づく悪性神経膠腫の体系化の確立と治療抵抗性の克服	中村 英夫	脳神経外科	1,000,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
117	ハプトグロビン-ジェノタイプによる脳血管疾患予防/予後予測法の確立	青木 孝親	脳神経外科	700,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
118	術中眼球運動モニターの開発のための基礎研究とビエノセンサの応用	坂田 清彦	脳神経外科	800,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
119	血行再建併用intensive cell supplyによる脳梗塞治療法の確立	折戸 公彦	脳神経外科	1,100,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
120	標準治療抵抗性尿路上皮がん患者に対するペプチドワクチン療法のバイオマーカー検索	末金 茂高	泌尿器科	700,000	補	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)

121	排尿筋層に存在する間質細胞の超微細的な解析	林 篤正	泌尿器科	140,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
122	線状IgA水疱性皮膚症の自己抗原の多様性に起因する病態の解明	大畑 千佳	皮膚科	1,560,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
123	自己免疫性水疱症における新規cDNAを用いた診断システムの確立	石井 文人	皮膚科	1,430,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
124	アトピー性皮膚炎患者由来iPS細胞を用いた病態解析および治療法の研究	沼田 早苗	皮膚科	1,040,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
125	皮膚T細胞性リンパ腫における腫瘍に必要な代謝経路とアポトーシス抵抗性の機序の解明	橋川 恵子	皮膚科	2,106,034 (平成29年度繰越)	補	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
126	CLEM-FIB/SEMを用いた接触皮膚炎惹起相におけるiSALTの三次元構築	夏秋 洋平	皮膚科	1,300,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
127	粘膜類天疱瘡患者血中抗ラミニン332抗体のエピトープ解析	古賀 浩嗣	皮膚科	2,080,000	補	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
128	皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究	大畑 千佳	皮膚科	600,000	補	難治性疾患等政策研究事業(厚生労働省)
129	ステロイド治療抵抗性の天疱瘡患者を対象としたIDEC-C2B8の医師主導によるオープンラベルシングルアーム多施設共同第Ⅱ相臨床試験	石井 文人	皮膚科	1,740,000	委	橋渡し研究戦略的推進プログラム(AMED)
130	各種自己免疫性水疱症における免疫グロブリンクラススイッチ過程の追跡と病原性の研究	石井 文人	皮膚科	150,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
131	胸腺上皮性腫瘍のイメージングバイオマーカーの確立	角 明子	放射線科	1,300,000	補	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
132	IL-22BP依存性制御性B細胞がアプスコパル効果に及ぼす影響の検討	氷室 秀知	放射線科	780,000	補	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
133	新たな根治的粒子線治療を実現する吸収性スパーサーの適応拡大と実用化研究	淡河 恵津世	放射線腫瘍センター	300,000	補	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
134	DREADOシステムを利用した脊髄後角HCN4をターゲットとした疼痛治療開発	大下 健輔	麻酔科	1,500,000	補	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
135	周術期心房細動における過分極誘発陽イオンチャンネルの病態生理学的機能の解明	小佐々 優子	麻酔科	1,000,000	補	科学研究費助成事業(科研費)若手研究

計135件

(注)

1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Matsumoto R	外科	Lung function in the late postoperative phase and influencing factors in patients undergoing pulmonary lobectomy.	Journal of Thoracic Disease. 10(5):2916-2923,May 2018	Original Article
2	Yokoyama S	外科	Thymic tumors and immune checkpoint inhibitors.	Journal of Thoracic Disease. 10(Suppl13):S1509-S1515,May 2018	Original Article
3	Tanigawa M, Naito Y, Akiba J, et al.	外科	PD-L1 expression in pancreatic adenosquamous carcinoma:PD-L1 expression is limited to the squamous component.	Pathology-Reseach and Practice. 214(12):2069-2074,Dec 2018	Original Article
4	Imai S., Tahara N, Hiromatsu S,et al.	外科	Endovascular repair for inflammatory abdominal aortic aneurysm.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 19(10):1191-1192,2018 Jun.	Original Article
5	Fukuda H, Aoki H, Yoshida S, et al.	外科	Characterization of SMAD2 Activation in Human Thoracic Aortic Aneurysm.	Ann Vasc Dis. 11(1):112-119, 2018 Mar.	Original Article
6	Hirata Y, Aoki H, Shojima T, et al.	外科	Activation of the AKT Pathway in the Ascending Aorta With Bicuspid Aortic Valve.	Circulation Journal 82:2485-2492, 2018 Oct.	Original Article
7	Ohno T, Aoki H, Ohno S, et al.	外科	Cytokine Profile of Human Abdominal Aortic Aneurysm: Involvement of JAK/STAT Pathway.	Ann Vasc Dis. 11(1):84-90, 2018 Mar.	Original Article
8	Saku K, Tahara N, Takaseya T, et al.	外科	Multimodal imaging of cardiac calcified amorphous tumor.	J Nucl Cardiol 12, 2018 Dec, (Epub ahead print)	Original Article
9	Saku K, Shintani Y, Tahara N, et al.	外科	Inflammatory reaction of a pericardial foreign body after cardiac surgery.	J Nucl Cardiol. (Epub ahead of print), 2018 Nov.	Case report
10	Kanamoto R, Hiromatsu S, Nata S, et al.	外科	Abdominal Aortic Aneurysm Caused by Aortic Fibromuscular Dysplasia: A Case Report.	Ann Vasc Dis 11(3):365-368, 2018 Sep.	Case report
11	Goto Y, Kojima S, Nomura Y, et al.	外科	Atherosclerosis of the right posterior hepatic artery in a patient with hilar cholangiocarcinoma undergoing left trisectionectomy: a case report of a therapeutic pitfall.	BMC Surg 18:76 Open Access 2018 Sep.	Case report
12	Goto Y, Uchino Y, Sasaki S, et al.	外科	Complete spontaneous necrosis of hepatocellular carcinoma accompanied by portal vein tumor thrombosis: A case report.	Int J Surg Case Rep 44:220-225, 2018 May.	Case report
13	Goto Y, Shirahama N, Sasaki S, et al.	外科	Endovascular Treatment for Very Early Hepatic Artery Stenosis Following Living-Donor Liver Transplantation: Report of Two Cases	Transplant Proc 50(5):1457-1460, 2018 Jun.	Case report
14	Watanabe H, Mizuno T, Kikuchi H, et al.	感染制御科	An attempt to support by the Japanese society of travel and health for increasing travel clinics.	J Infect Chemother, 2018 Dec, 24: 1024-1025.	Original Article

15	Yaita K, Sugi S, Hayashi M, Koga T	感染制御科	The co-existence of Lemierre's syndrome and Bezold's abscesses due to Streptococcus constellatus: A case report.	Medicine, 2018 Jun (オンライン), 97: e11228.	Case report
16	Yaita K, Yahara K, Hamada N	感染制御科	Typhoid Vaccination among Japanese Travelers to South Asia and the Factors Associated with Compliance.	Intern Med, 2018 Apr, 57: 1071-1074.	Original Article
17	Haruta M, Ohshima H, Yamakawa R	眼科	Macular ganglion cell complex measurement in bilateral retrobulbar optic neuropathy without a relative afferent pupillary defect	Int Med Case Rep J, Jun. 2018; 11:145-150	Case report
18	Morinaga K, Rikimaru Y, Kiyokawa K	形成外科・顎顔面外科	Treatment of Abdominal Surgical Wound Dehiscence With Bowel Exposure and Infection Using Intraound Continuous Negative Pressure, Irrigation, and Application of Artificial Dermis	Annals of Plastic Surgery. 2019 Feb; 82: 213-217	Original Article
19	Horinouchi T, oshizato T, Kozuma Y	産婦人科	Prediction of histological chorioamnionitis and neonatal and infantile outcomes using procalcitonin in the umbilical cord blood and amniotic fluid at birth	J Obstet Gynaecol Res 2018 Apr; 44: 630-6	Original Article
20	Nishio S, Aihara S, Shimokawa M	産婦人科	Efficacy of palonosetron plus dexamethasone in preventing chemotherapy-induced nausea and emesis in patients receiving carboplatin-based chemotherapy for gynecologic cancers: a phase II study by the West Japan Gynecologic Oncology Group (WJGOG 131)	J Gynecol Oncol 2018 Sep; 29 (オンライン)	Original Article
21	Nishio S, Shimokawa M, Tasaki K	産婦人科	A phase II trial of irinotecan in patients with advanced of recurrent endometrial cancer and correlation with biomarker analysis	Gynecol Oncol 2018 Sep; 150: 432 - 7	Original Article
22	Nishio S, Matsuo K, Yonemoto K	産婦人科	Race and nodal disease status are prognostic factors in patients with stage IVB cervical cancer	Oncotarget 2018 Aug; 32321 - 30	Original Article
23	AKIHIRO KOBAYASHI, RYUICHIRO TANOUE, SHOGO KIKUTA, et al.	歯科口腔医療センター	The Usefulness of Piezoelectric Surgery in Sagittal Split Ramus Osteotomy	The Kurume Medical Journal 64(3) P.57-63,2018 Apr.	Original Article
24	Shogo Kikuta, Joe Iwanaga, Ken Nakamura, et al.	歯科口腔医療センター	The retromolar canals and foramina: radiographic observation and application to oral surgery	Surgical and Radiologic Anatomy 40(6)P.647-652,2018 Jun.	Original Article
25	Joe Iwanaga, Paul J. Choi, Marc Vetter	歯科口腔医療センター	Anatomical Study of the Lingual Nerve and Inferior Alveolar Nerve in the Pterygomandibular Space: Complications of the Inferior Alveolar Nerve Block	Cureus 10(8),2018 Aug. (オンライン)	Original Article
26	Shogo Kikuta, Joe Iwanaga, Keita Todoroki, et al.	歯科口腔医療センター	Clinical Application of the IllumiScan Fluorescence Visualization Device in Detecting Oral Mucosal Lesions	Cureus 10(8),2018 Aug. (オンライン)	Original Article
27	Shogo Kikuta, Keita Todoroki, Naoko Seki, et al.	歯科口腔医療センター	Adenosquamous Carcinoma in the Midline Dorsum of the Tongue: A Rare Case Report	Oral and Maxillofacial Surgery 76(10)P.2131-2135,2018 Oct.	Case report
28	JOE IWANAGA, CHARLOTTE WILSON, EMILY SIMONDS, et al.	歯科口腔医療センター	First Report of a Bifid Mandibular Canal Containing a Large Vein Draining into the Anterior Jugular Vein	The Kurume Medical Journal 65(1)P.27-30,2018 Apr.	Case report

29	Kikuta S, Iwanaga J, Kusukawa J, et al.	歯科口腔医療センター	Untreated incomplete isolated cleft palate: cadaveric findings	Anatomical Science International 94(1)P.154-157, 2019 Jan.	Case report
30	Kikuta S, Furukawa Y, Hino K, et al.	歯科口腔医療センター	Huge ameloblastic carcinoma in the mandible with multiple metastases: application to multiple treatments	British Journal of Oral and Maxillofacial Surgery 57(2)P.182-184, 2019 Feb.	Others
31	Kiminori Sato, Shun-ichi Chitose, Kiminobu Sato, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Permeability and Weibel-Palade bodies of the blood vessels in the human vocal fold mucosa	Laryngoscope 128:2588-2592, 2018 Nov.	Original Article
32	Kiminori Sato, Shun-ichi Chitose, Fumihiko Sato, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Surgical histology for adduction arytenopexy using injection laryngoplasty	J Laryngol Otol 132:1143-1146, 2018 Dec.	Original Article
33	Saikusa T, Hara M, Iwama K, et al.	小児科	De novo HDAC8 mutation causes Rett-related disorder with distinctive facial features and multiple congenital anomalies.	Brain Dev. 2018 May;40(5):406-409	Original Article
34	Yuge K, Iwama K, Yonee C, et al.	小児科	A novel STXB1 mutation causes typical Rett syndrome in a Japanese girl.	Brain Dev. 2018 Jun;40(6):493-497	Original Article
35	Nakamura M, Tanaka S, Inoue T, et al.	小児科	Systemic lupus erythematosus and Sjögren's syndrome complicated by conversion disorder: a Case report.	Kurume Med J. 2018 Jul 10;64(4):97-101	Case report
36	Yoshizuka T, Kinoshita M, Iwata S, et al.	小児科	Estimation of elevated intracranial pressure in infants with hydrocephalus by using transcranial Doppler velocimetry with fontanel compression.	Sci Rep. 2018 Aug 7;8(1):11824	Original Article
37	Hashizume N, Tanaka Y, Yoshida M, et al.	小児科	Resting energy expenditure prediction using bioelectrical impedance analysis in patients with severe motor and intellectual disabilities.	Brain Dev. 2018 Nov 27. pii: S0387-7604(18)30385-1	Original Article
38	Yae Y, Kawano G, Yokochi T, et al.	小児科	Fulminant acute disseminated encephalomyelitis in children.	Brain Dev. 2018 Dec 3. pii: S0387-7604(18)30260-2	Original Article
39	Ishihara J, Mizuochi T, Uchida T, et al.	小児科	Infantile-onset inflammatory bowel disease in a patient with Hermansky-Pudlak syndrome: a case report.	BMC Gastroenterol 2019 Jan;19:9.	Case report
40	Takaki Y, Mizuochi T, Nishioka J, et al.	小児科	Nonalcoholic fatty liver disease with prolactin-secreting pituitary adenoma in an adolescent: A case report.	Medicine (Baltimore) 2018 Oct;97:e12879.	Case report
41	Eda K, Mizuochi T, Takaki Y, et al.	小児科	Successful azathioprine treatment in an adolescent with chronic enteropathy associated with SLCO2A1 gene: A case report.	Medicine (Baltimore) 2018 Oct;97:e12811.	Case report
42	Mizuochi T, Takano T, Yanagi T, et al.	小児科	Epidemiologic features of 348 children with hepatitis C virus infection over a 30-year period: a nationwide survey in Japan.	J Gastroenterol 2018 Mar;53:419-426.	Original Article
43	Eda K, Mizuochi T, Takaki Y, et al.	小児科	Adenomyomatosis of the gallbladder with pancreaticobiliary maljunction in a child.	J Pediatr Gastroenterol Nutr 2018 Oct;67:e82.	Case report
44	Kinoshita, M, et al.	小児科	Feeding-Induced Cortisol Response in Newborn Infants.	J Clin Endocrinol Metab 2018 Dec; 103(12): 4450-4455.	Original Article
45	Harada, E, et al.	小児科	Visual function scale for identification of infants with low respiratory compliance	Pediatr Neonatol. 2019 Mar 2 (オンライン)	Original Article

46	Fukahori S, Yagi M, Ishii S, et al.	小児外科	Analyses of the relationship between a "number of reflux episodes" exceeding 70 and the pH index in neurologically impaired children by evaluating esophageal combined pH-multichannel intraluminal impedance measurements.	Scand J Gastroenterol 25:1-8,2018 May	Original Article
47	Sakamoto S, Hashizume N, Yoshida M, et al.	小児外科	Laparoscopic hernia repair using Lapa-Her-Closure™ for giant pediatric subxiphoid incisional hernia	Journal of Pediatric Surgery Case Reports 36:10-12 2018, Sep.	Case report
48	Higashidate N, Fukahori S, Ishii S, et al.	小児外科	Non-traumatic testicular dislocation mimicking incarcerated inguinal hernia in a one-year-old boy	Journal of Pediatric Surgery Case Reports 38 47-49 2018, Nov.	Case report
49	Sakamoto S, Hashizume N, Fukahori S, et al.	小児外科	A large retroperitoneal lipoblastoma: A case report and literature review.	Medicine 97(40) e12711 2018 2018, Oct.	Case report
50	Maruyama M, Iijima S, Ishibashi N, et al.	消化器内科	Feasibility of International Proposed Standardized Enteral Connector for Semi-Solid Formula Feeding. Annals of Nutrition & Metabolism	Annals of Nutrition & Metabolism. 2018 Oct; 73: 169-176(オンライン)	Original Article
51	Wada F, Koga H, Akiba J, et al.	消化器内科	High expression of CD44v9 and xCT in chemoresistant hepatocellular carcinoma: Potential targets by sulfasalazine	Cancer Science. 2018 Sep; 109: 2801-2810	Original Article
52	Iwamoto H, Abe M, Yang Y, et al.	消化器内科	Cancer Lipid Metabolism Confers Antiangiogenic Drug Resistance	Cell Metabolism. 2018 Jul; 28: 104-117	Original Article
53	Nishina S, Yamauchi A, Kawaguchi T, et al.	消化器内科	Dipeptidyl Peptidase 4 Inhibitors Reduce Hepatocellular Carcinoma by Activating Lymphocyte Chemotaxis in Mice	Gastroenterology and Hepatology. 2018 Sep; 7: 115-134	Original Article
54	Takehara T, Chayama K, Yatsuhashi H, et al.	消化器内科	Sofosbuvir-velpatasvir plus ribavirin in Japanese patients with genotype 1 or 2 hepatitis C who failed direct-acting antivirals	Hepatology International. 2018 Jul; 12: 356-367	Original Article
55	Kawaguchi T, Inokuchi T, Honma T, et al.	消化器内科	Factors Associated with Advanced Hepatic Fibrosis in Patients with Various Internal Diseases: A Multicenter Community-based Survey	Hepatology Research. 2018 Oct; 48: 882-892	Original Article
56	Bekki M, Hashida R, Kawaguchi T, et al.	消化器内科	The association between sarcopenia and decorin, an exercise-induced myokine, in patients with chronic liver disease	Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle-Rapid Communications. 2018 Jul; 1: e00068(page 1-10)	Original Article
57	Hirota K, Kawaguchi T, Hashida R, et al.	消化器内科	Profiles Associated with Sarcopenia in Hepatoma Patients Underwent Transcatheter Arterial Chemoembolization: A Data-Mining Analysis. Journal of Cachexia	Sarcopenia and Muscle-Clinical Reports. 2018 Jul; 3: e00066(page 1-17), 2018	Original Article
58	Katayama K, Kawaguchi T, Shiraishi K, et al.	消化器内科	The Prevalence and Implication of Zinc Deficiency in Patients With Chronic Liver Disease	Journal of Clinical Medicine Research. 2018 May; 10: 437-444	Original Article
59	Ishiba H, Sumida Y, Tanaka S, et al.	消化器内科	The novel cutoff points for the FIB4 index categorized by age increase the diagnostic accuracy in NAFLD: a multi-center study	Journal of Gastroenterology. 2018 Nov; 53: 1216-1224	Original Article
60	Takahashi A, Arinaga-Hino T, Ohira H, et al.	消化器内科	Non-alcoholic fatty liver disease in patients with autoimmune hepatitis	Journal of Gastroenterology and Hepatology. 2018 Apr; 2: 54-58	Original Article



61	Ishida Y, Okabe Y, Yasumoto M, et al.	消化器内科	Ex vivo magnifying endoscopic observation of bile duct mucosa using narrow band imaging	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences. 2018 Sep; 25: 433-439	Original Article
62	Kawaguchi T, Nakano D, Oriishi T, et al.	消化器内科	Effects of isomaltulose on insulin resistance and metabolites in patients with nonalcoholic fatty liver disease: A metabolomic analysis	Molecular Medicine Reports. 2018 Aug; 18: 2033-2042	Original Article
63	Nagata S, Mitsuyama K, Kawano H, et al.	消化器内科	Endoscopic analysis of colorectal serrated lesions with cancer	Oncology Letters. 2018 Jun; 15: 8655-8662, 2018	Original Article
64	Ito T, Takada, Omoto S, et al.	消化器内科	Analysis of Prognostic Factors in Pancreatic Metastases: A Multicenter Retrospective Analysis	Pancreas. 2018 Sep; 47: 1033-1039, 2018	Original Article
65	Takahashi A, Moriya K, Ohira H, et al.	消化器内科	Health-related quality of life in patients with autoimmune hepatitis: A questionnaire survey	PLoS One. 2018 Oct; 13: e0204772(page 1-11)	Original Article
66	Kawaguchi T, Tokushige K, Hyogo H, et al.	消化器内科	A Data Mining-based Prognostic Algorithm for NAFLD-related Hepatoma Patients: A Nationwide Study by the Japan Study Group of NAFLD	Scientific Reports. 2018 Jun; 8: 10434(page.1-13)	Original Article
67	Maeyama Y, Mitsuyama K, Noda T, et al.	消化器内科	Prediction of colorectal tumor grade and invasion depth through narrow-band imaging scoring	World Journal of Gastroenterology. 2018 Nov; 24: 4809-4820	Original Article
68	Nakano M, Koga H, Ide T, et al.	消化器内科	Predictors of hepatocellular carcinoma recurrence associated with the use of direct-acting antiviral agent therapy for hepatitis C virus after curative treatment: A prospective multicenter cohort study	Cancer Medicine. 2019 Mar; 8: 2646-2653	Original Article
69	Takase Y, Naito Y, Okabe Y, et al.	消化器内科	INSM1 expression in pancreatic neuroendocrine tumors in endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration cytology: an analysis of 14 patients	Cytopathology. 2019 Mar; 30: 194-200	Original Article
70	Daniels SJ, Leeming DJ, Eslam M, et al.	消化器内科	ADAPT: An algorithm incorporating PRO-C3 accurately identifies patients with NAFLD and advanced fibrosis	Hepatology. 2019 Mar; 69: 1075-1086	Original Article
71	Aiso M, Takikawa H, Tsuji K, et al.	消化器内科	An analysis of 307 cases with drug-induced liver injury between 2010 and 2018 in Japan	Hepatology Research. 2019 Jan; 49: 105-110	Original Article
72	Hirai F, Ishida T, Takeshima F, et al.	消化器内科	Effect of a concomitant elemental diet with maintenance anti-tumor necrosis factor-alpha antibody therapy in patients with Crohn's disease: A multicenter, prospective cohort study	Journal of Gastroenterology and Hepatology. 2019 Jan; 34: 132-139	Original Article
73	Koya S, Kawaguchi T, Hashida R, et al.	消化器内科	Effects of In-Hospital Exercise on Sarcopenia in Hepatoma Patients Who Underwent Transcatheter Arterial Chemoembolization	Journal of Gastroenterology and Hepatology. 2019 Mar; 34: 580-588	Original Article
74	Sano I, Katanuma A, Kuwatani M, et al.	消化器内科	Long-term outcomes after therapeutic ERCP using balloon-assisted enteroscopy for anastomotic stenosis of choledochopancreaticojunostomy	Journal of Gastroenterology and Hepatology. 2019 Jan 34: 612-619	Original Article
75	Shirano T, Iwamoto H, Niizeki T, et al.	消化器内科	Epirubicin is More Effective than Miriplatin in Balloon-Occluded Transcatheter Arterial Chemoembolization for Hepatocellular Carcinoma	Oncology. 2019 Feb; 96: 79-86 (オンライン)	Original Article

76	Iwamoto H, Nomiya M, Niizeki T, et al.	消化器内科	Dose and Location of Irradiation Determine Survival for Patients with Hepatocellular Carcinoma with Macrovascular Invasion in External Beam Radiation Therapy	Oncology. 2019 Jan; 96: 192-199, 2019	Original Article
77	Hitomi Y, Ueno K, Kawai Y, et al.	消化器内科	POGLUT1, the putative effector gene driven by rs2293370 in primary biliary cholangitis susceptibility locus chromosome 3q13.33.	Scientific Reports. 2019 Jan; 9: 102	Original Article
78	Sasaki K, Ishizaki Y, Sasaki M, et al.	心臓・血管内科	Hybrid training system-induced myokine secretion in healthy men.	Cytokine. 2018 Nov;111:178-181.	Original Article
79	Morikawa N, Adachi H, Enomoto M, et al.	心臓・血管内科	Thrombospondin-2 as a potential risk factor in a general population.	Int Heart J. 2019 Mar 20;60(2):310-317.	Original Article
80	Igata S, Tahara N, Sugiyama Y, et al.	心臓・血管内科	Utility of the amplitude of RV1+SV5/6 in assessment of pulmonary hypertension.	PLoS One. 2018 Nov 26;13(11):e0206856.	Original Article
81	Morikawa N, Nakayoshi T, Yoshimura H, et al.	心臓・血管内科	The Use of Bromocriptine for Peripartum Cardiomyopathy after Twin Delivery via Oocyte Donation.	Intern Med. 2019 Feb 15;58(4):541-544.	Case report
82	Nakamura T, Tahara N, Tahara A, et al.	心臓・血管内科	Right ventricular workload assessed by FDG-PET in a patient with residual VSD and infundibular pulmonary stenosis after repair of tetralogy of Fallot.	J Nucl Cardiol. 2018 Jun;25(3):1053-1055.	Case report
83	Matsuda K, Miyoshi H, Hiraoka K, et al	整形外科	Elevated Expression of Transforming Acidic Coiled-Coil Containing Protein 3(TACC3)Is Associated With a Poor Prognosis in Osteosarcoma.	Clinical Orthopaedics and Related Research 2018 Sep;476(9):1848-1855.	Original Article
84	Matsuda K, Miyoshi H, Hiraoka K, et al	整形外科	Clinicopathological value of programmed cell death 1(PD-1)and programmed cell death ligand (PD-L1)expression in synovium of patients with rheumatoid arthritis.	Clinical and Experimental Medicine 2018 Nov;18(4):487-494.	Original Article
85	Matsuda K, Miyoshi H, Moritsubo M, et al	整形外科	Clinicopathological and immunohistochemical analysis of autoimmune regulator expression in patients with osteosarcoma.	Clinical & Experimental Metastasis 2018 Oct;35(7):641-648.	Original Article
86	Matsubara T, Yamada K, Sato K, et al	整形外科	Clinical outcomes of percutaneous suction aspiration and drainage for the treatment of infective spondylodiscitis with paravertebral or epidural abscess.	The Spine Journal 2018 Sep;18(9):1558-1569.	Original Article
87	Misari Oe, Tetsuya Ishida, Celine Favrod, et al.	精神神経科	Burnout, Psychological Symptoms, and Secondary Traumatic Stress Among Midwives Working on Perinatal Wards: A Cross-Cultural Study Between Japan and Switzerland	Frontiers in Psychiatry.2018 September; (9): 387	Original Article
88	Miyagi N, Nakashima S, Negoto T, et al.	脳神経外科	5-aminolevulinic acid fluorescence in tumefactive demyelinating lesion.	Neurosurgical Review. 2018 Apr. :41(2):693-695	Original Article
89	Ohkura A, Negoto T, Aoki T, et al.	脳神経外科	Stenotic changes of the posterior cerebral artery are a major contributing factor for cerebral infarction in moyamoya disease.	Surgical Neurology International. 2018 May. :9:105	Original Article

90	Noguchi K, Aoki T, Orito K, et al.	脳神経外科	Novel indirect revascularization technique with preservation of temporal muscle function for Moyamoya disease encephalo-duro-fascio-arterio-pericranial-synangiosis: A case series and technical note.	World Neurosurgery. 2018 Dec. :120:168-175	Original Article
91	Noguchi K, Ali TFS, Miyoshi J, et al.	脳神経外科	Neuroprotective effects of a novel carnosine-hydrazide derivative on hippocampal CA1 damage after transient cerebral ischemia.	European Journal of Medicinal Chemistry. 2019 Feb. :163:207-214	Original Article
92	Yamamoto M, Orito K, Nakamura Y, et al.	脳神経外科	Leakage sign for acute subdural hematoma in clinical treatment.	Acta Neurochirurgica. 2019 Feb. :161(2):233-238	Original Article
93	Sakata K, Takeshige N, Nagata Y, et al.	脳神経外科	Endoscopic Endonasal Removal of Primary/Recurrent Meningiomas in the Medial Optic Canal: Surgical Technique and Long-Term Visual Outcome.	Oper Neurosurg (Hagerstown) 2019 Feb 7	Original Article
94	Sakata K, Suematsu K, Takeshige N, et al.	脳神経外科	Novel method of intraoperative ocular movement monitoring using a piezoelectric device: experimental study of ocular motor nerve activating piezoelectric potentials (OMNAPP) and clinical application for skull base surgeries.	Neurosurg Rev 2018 Sep 12	Original Article
95	TASUKU HIROSHIGEI, YOSHIRO EGUCHI, OSAMU YOSHIZUMI, et al.	泌尿器科	Baseline prostate-specific antigen levels following treatment with abiraterone acetate as a prognostic factor in castration-resistant prostate cancer	Oncol Lett. 2018 May;15(5):6806-6814	Original Article
96	Koganemaru M	放射線科	Internal Coil Packing of an Amplatzer Vascular Plug after Incomplete Occlusion of the Afferent Vessel of a Splenic Artery Aneurysm.	J Vasc Interv Radiol, 29(9): September 2018,1310-1313, doi: 10.1016/j.jvir.2018.02.008; 2018	Case report
97	Uchiyama Y	放射線科	Diffuse large B-cell-type lymphoma of the central nervous system : Characteristic findings of MRI.	PRIMARY CENTRAL NERVOUS SYSTEM LYMPHOMAS AND RELATED DISEASES: BIOLOGY, PATHOLOGY, AND TREATMENT, Sugita Y. (eds), 191-202, February 2019	Original Article
98	Makoto Suzuki, Satoru Morita, Yasuhiro Goto, et.al.	画像診断センター	Artifact-robust diffusion-weighted whole-body imaging with background suppression at 3 T using improved turbo spin-echo diffusion-weighted imaging	British Institute of Radiology (BJR), <a href="https://doi.org/10.1259/bjr.20180489">https://doi.org/10.1259/bjr:20180489</a> Received: May 31, 2018 Accepted: October 29, 2018 Published Online: November 14, 2018	Original Article
99	Kawahara A, Fukumitsu C, Azuma K, et al.	病院病理部	Combined test using both cell sediment and supernatant cell-free DNA in pleural effusion shows increased sensitivity in detecting activating EGFR mutation in lung cancer patients.	Cytopathology, 2018; Apr;29: 150-155.	Original Article
100	Kawahara A, Abe H, Murata K, et al.	病院病理部	Screening system for epidermal growth factor receptor mutation detection in cytology cell-free DNA of cerebrospinal fluid based on assured sample quality.	Cytopathology. 2019 Mar;30(2):144-149.	Original Article
101	Naito Y, Kawahara A, Okabe Y, et al.	病院病理部	SurePath® LBC improves the diagnostic accuracy of intrahepatic and hilar cholangiocarcinoma.	Cytopathology. 2018 Aug;29(4):349-354.	Original Article

102	Ito S, Tahara N, Hirakata S, et al.	臨床検査部	Signal intensity of superb micro-vascular imaging associates with the activity of vascular inflammation in Takayasu arteritis	Journal of Nuclear Cardiology. 2019 Mar (オンライン)	Case report
103	Rabe KG, Matsuse H, Jackson A, et al.	整形外科	Evaluation of the Combined Application of Neuromuscular Electrical Stimulation and Volitional Contractions on Thigh Muscle Strength, Knee Pain, and Physical Performance in Women at Risk for Knee Osteoarthritis: A Randomized Controlled Trial.	PM R. 2018 Dec;10(12):1301-1310.	Original Article

計103件

- (注)
- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
  - 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
  - 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
  - 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
  - 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
  - 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	著者名 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	八板謙一郎、石橋幹雄、富永正樹、他	感染制御科	地方拠点病院における感染症コンサルテーションの中でのHIV/AIDS診療	日本エイズ学会雑誌, 2018 May, 20: 160-164.	Case report
2	春田雅俊、大島寛之、吉田茂生	眼科	黄斑部の漿液性網膜剥離を伴った前部虚血性視神経症の2例	眼科臨床紀要 11(12): 906-910, 2018	Case report
3	岩田健作、春田雅俊、上原浩嗣、他	眼科	増殖糖尿病網膜症に対する小切開硝子体手術の視力予後因子の検討	臨床眼科 72(12): 1593-1599, 2018	Original Article
4	岡龍彦、春田雅俊、嵩翔太郎、他	眼科	草刈り機による射創性脈絡網膜症と眼窩内金属異物の1例	臨床眼科73(3):375-379,2019	Case report
5	Han A, Kiyokawa K, Yonemitsu N	形成外科・顎顔面外科	腰部正中に生じた非懸垂性巨大軟性線維腫の1例	形成外科. 2018 Apr; 61: 470-474	Case report
6	Oishi O, Rikimaru Y, Morinaga K, et al.	形成外科・顎顔面外科	3cm以上の先天性陰閉鎖症に対し腹腔形成術の工夫を行った2例	形成外科. 2018 Aug; 61: 1028-1034	Case report
7	牛嶋公生、片瀨秀隆、小林裕明	産婦人科	転移、再発を来した子宮筋腫症例の検討(臨床的事項を中心に)	日本婦人科腫瘍学会雑誌 2018 Apr; 36:177 - 80	Original Article
8	藤崎可菜、松隈健、河野光一郎	産婦人科	皮膚筋炎の診断を契機に子宮体癌が発見された腫瘍随伴症候群の1例	福岡産科婦人科学会雑誌 2018 Jul; 42: 13 - 6	Case report
9	Akihiko Kawahara, Takeharu Ono, Akiko Sumi, et al.	病理部	Large cell neuroendocrine carcinoma of the maxillary sinus on fine needle aspiration cytology: Report of a rare case with a focus on pitfalls in diagnosis	Diagnostic Cytopathology 46:187-192, 2018	Original Article
10	千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	嚥下障害に対する外科的治療の選択とその実際	大阪府耳鼻咽喉科医会会報 88:35-49, 2018	Original Article
11	千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	輪状咽頭筋切断術・喉頭挙上術を行う前に	耳喉頭頸 90(増刊号):238-239, 2018	Original Article
12	千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	咽頭弁形成術	JOHNS 34:603-607, 2018	Original Article
13	Takeharu Ono, Koichi Azuma, Akihiko Kawahara, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Prognostic stratification of patients with nasopharyngeal carcinoma based on tumor immune microenvironment	Head & Neck 40:2007-2019, 2018	Original Article
14	Mioko Fukahori, Shun-ichi Chitose, Kiminori Sato, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Augmentation surgery on the cartilaginous portion of the vocal fold in a patient with cricoarytenoid joint ankylosis	Auris Nasus Larynx 45:885-889, 2018	Original Article
15	Takeharu Ono, Koichi Azuma, Akihiko Kawahara, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Pre-treatment CD8+ tumour-infiltrating lymphocyte density predicts distant metastasis after definitive treatment in patients with stage III/IV hypopharyngeal cell carcinoma	Clinical Otolaryngology 43: 1312-1320, 2018	Original Article

16	Fumihiko Sato, Jun Akiba, Akihiko Kawahara, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	The expression of programmed death ligand-1 could be related with unfavorable prognosis in salivary duct carcinoma	Journal of Oral Pathology 47:683-690, 2018	Original Article
17	千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	他科から嚥下評価の依頼を受けたとき-基本的な評価方法と指導-	MB ENT 223:103-107, 2018	Original Article
18	Kiminori Sato, Shun-ichi Chitose, Fumihiko Sato, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Deglutition and respiratory patterns during sleep in the aged with OSAS	Laryngoscope Investigative Otolaryngology 3:500-506, 2018	Original Article
19	島田翔、後藤憲志、鍵山慶之、他	小児科	カテーテル関連血流感染症が原因と考えられたCandida parapsilosisによる静脈内および右房内肉腫の一例	久留米医学会雑誌 81(8/10): 241-247, 2018.	Case report
20	橋詰直樹、田中芳明、浅桐公男、他	小児外科	久留米大学における臨床栄養学卒業前教育	日本静脈経腸栄養学会雑誌 33(2) 771-775 2018	Original Article
21	橋詰直樹、八木実、恵紙英昭、他	小児外科	当科における漢方療法を用いた乳児肛門周囲膿瘍に対する治療変遷	漢方と最新治療 27(2) 137-141 2018	Original Article
22	橋詰直樹、八木実、薬師寺和昭、他	小児外科	アルツハイマー型認知症に対するノビレチン高含有陳皮配合抑肝散加陳皮半夏の使用経験	漢方と最新治療 27(3) 271-275 2018年	Original Article
23	升井大介、深堀優、愛甲崇人、他	小児外科	胎児期に臍帯嚢胞を指摘され、出生後に尿管管開存と診断された1例	日本小児外科学会雑誌 54(7) 1357-1362 2018	Case report
24	Yamauchi R, Araki T, Mitsuyama K, et al.	消化器内科	The characteristics of nivolumab-induced colitis: an evaluation of three cases and a literature review	BMC Gastroenterology. 2018 Aug; 18:135	Case report
25	Rikitake Y, Fukunaga S, Abe H, et al.	消化器内科	Case of a Young Man With Abdominal Pain and Jaundice	Gastroenterology. 2018 Apr; 154: e8-e9	Case report
26	Araki T, Arinaga-Hino T, Koga H, et al.	消化器内科	Marked accumulation of FDG and inflammatory cells expressing glucose transporter-3 in IgG4-related autoimmune hepatitis	Hepatology Research. 2018 Oct; 48: 937-944	Case report
27	室屋大輔、石川博人、小嶋聡生、他	消化器内科	胆管プラスチックステント留置後の非動脈性胆道出血に対して手術療法を要した1例	胆道. 2018 May; 32: 284-289	Case report
28	吉富宗博、川原隆一、安永昌史、他	消化器内科	経皮経肝逆行性胆道ドレナージ(PTRBD)が有用であった肝切除後胆汁嚢を伴う胆管狭窄の1例	胆道. 2018 May; 32: 290-294	Case report
29	阪上尊彦、深堀理、三輪啓介、他	消化器内科	Gemcitabine+nab-Paclitaxel併用療法後に切除可能となった局所進行切除不能肺癌の1例	脾臓. 2018 Aug; 33: 776-782	Case report
30	白濱正博	整形外科	災害時における災害拠点病院の役割	日本整形外科学会雑誌92(4); 206-209, 2018	Original Article
31	山田 圭	整形外科	オピオイドや抗うつ薬の副作用とコントロール	関節外科37(6); 661-667, 2018	Original Article

32	神保幸太郎、西田一輝、森戸伸治、他	整形外科	距骨頸部骨折の治療成績	整形外科と災害外科67(2); 238-242,2018	Original Article
33	久米慎一郎、石橋千直、後藤昌史、他	整形外科	寛骨臼巨大骨欠損に対してBurch-Schneider Reinforcement Cageを用いた寛骨臼再建の治療成績	日本人工関節学会誌48巻; 72-73,2018	Original Article
34	杉山卓郎、後藤昌史、光井康博、他	整形外科	吸収性アンカーを用いた鏡視下腱板修復術後に異物反応性関節炎をきたした1例	整形外科と災害外科67(3); 561-563,2018	Original Article
35	野口幸志	整形外科	陳旧性足関節外側靭帯損傷に対する鏡視下Brostrom法術後の超音波による経時的評価	日本整形外科超音波学会誌29(1); 110-115,2018	Original Article
36	田淵幸祐、副島崇、木内正太郎、他	整形外科	膝後十字靭帯二重束再建時の大腿骨側移植腱曲がり角と大腿骨骨孔作成時の膝屈曲角度の関係	JOSKAS 43(1); 184-185,2018	Original Article
37	吉田史郎、仲摩憲次郎、松浦充洋	整形外科	【手・手関節鏡手術の現状と未来】手関節鏡視下手術の工夫	整形・災害外科61(1); 51-60,2018	Original Article
38	松浦充洋、白濱正博、岡崎真悟、他	整形外科	当院救急部における重度既存疾患を伴う高齢者大腿骨近位部骨折の治療戦略	Hip Joint 44(1); 203-205,2018	Original Article
39	岡崎真悟、白濱正博、松浦充洋、他	整形外科	大腿骨転移部骨折に対するスライディングを許容しない固定法による治療	Hip Joint 44(1); 239-242,2018	Original Article
40	原光司、松垣亨、吉田龍弘、他	整形外科	腓骨神経麻痺を呈した膝窩嚢腫の1例	整形外科と災害外科67(1); 19-21,2018	Original Article
41	西田一輝、神保幸太郎、森戸伸治、他	整形外科	非転位型大腿骨頸部骨折の治療成績 外反角は成績に影響するか?	骨折40(2); 422-425,2018	Original Article
42	森戸伸治、神保幸太郎、西田一輝、他	整形外科	大腿骨近位部2次骨折の検討	骨折40(4); 1010-1012,2018	Original Article
43	神保幸太郎、井手洋平、佐々木威治	整形外科	転移性脊椎腫瘍による病的骨折に対する姑息的手術	骨折40(2); 365-368,2018	Original Article
44	白石絵里子、吉田健治、國武真史、他	整形外科	極めて稀な母指中手骨骨端離開の1例	整形外科と災害外科67(1); 82-87,2018	Original Article
45	岩永壮平、吉光一浩、濱田哲矢、他	整形外科	非結核性抗酸菌による人工股関節置換術後遅発性感染の1例	整形外科と災害外科67(4); 726-728,2018	Original Article
46	國武真史、吉田健治、中村英智、他	整形外科	母指中手骨骨端離開の1例	整形外科と災害外科67(4); 606-609,2018	Original Article
47	小倉友介、坂井健介、秋吉寿、他	整形外科	小児の陳旧性PIP関節橈側側副靭帯付着部裂離骨折に対して骨端線閉鎖後に靭帯再建を行った1例	整形外科と災害外科67(1); 97-100,2018	Original Article
48	小倉友介、坂井健介、秋吉寿、他	整形外科	長期間橈骨頭脱臼が放置された陳旧性モンテジア骨折の1例	骨折40(3); 686-689,2018	Original Article
49	林田一公、胤末亮、井戸川友樹、他	整形外科	当院における人工膝関節置換術での関節周囲多剤カクテル注射の使用経験	整形外科と災害外科67(3); 479-481,2018	Original Article
50	阿部隆之介、濱田哲矢、平岡弘二、他	整形外科	長母趾屈筋腱に発生したtenosynovial chondromatosisの1例	整形外科と災害外科67(2); 195-197,2018	Original Article
51	田原慎太郎、平岡弘二、濱田哲矢、他	整形外科	小児の手掌に発生したlipfibromatosisの1例	整形外科と災害外科67(2); 198-202,2018	Original Article

52	石田哲也, 大江美佐里, 長沼清, 他	精神神経科	神経症圈患者への短期心理教育面接の心理療法としての意味づけ	九州神経精神医学 2018; 64(2): 63-70	Original Article
53	吉武秀展, 宮城尚久, 吉富宗健, 他	脳神経外科	梯子・脚立からの転落による頭部外傷の検討	脳神経外科. 2018;46(12):1065-1071	Original Article
54	竹内靖治, 廣畑優, 折戸公彦, 他	脳神経外科	高度脳血管攣縮に対する経皮的血管拡張術の有用性	脳血管攣縮. 2019;34:25-30	Original Article
55	廣畑 優	脳神経外科	MONTHLY VIEW New deviceとの付き合い方	脳神経外科速報 2018;28(8):826-827	Original Article
56	折戸 公彦	脳神経外科	脳内出血増大の新たな予測因子 Leakage signの有用性	福岡県医学会誌 2018;10:7-9	Original Article
57	Koga H, Ishii N, Ohata C, et al.	皮膚科	Bullous pemphigoid in a mother (DQB1*03:01:01) and daughter (DRB1*11:01) receiving antidiabetic drugs.	Eur J Dermatol. 28(1):131-133,2018	Case report
58	Nakama K, Koga H, Ishii N, et al.	皮膚科	Clinical and Immunological Profiles of 14 Patients With Bullous Pemphigoid Without IgG Autoantibodies to the BP180 NCI16A Domain.	JAMA Dermatol.154(3):347-350,2018	Original Article
59	Ohata C, Koga H, Saruta H, et al.	皮膚科	Bacteremia in autoimmune bullous disease patients undergoing double-filtration plasmapheresis.	J Dermatolog Treat.8:1-3, 2018	Case report
60	Ohata C, Ohyama B, Kuwahara F, et al.	皮膚科	Real-world data on the efficacy and safety of apremilast in Japanese patients with plaque psoriasis.	J Dermatolog Treat.8:1-4,2018	Case report
61	Ohata C, Ohyama B, Nanri A, et al.	皮膚科	A retrospective observational study on biological drug treatment in a daily practice serving patients with psoriasis in Japan.	J Cutan Pathol.45(8):623-628,2018	Original Article
62	Muto I, Kuwahara F, Shintani T, et al.	皮膚科	Adenodermatofibroma possessing dilated glandular structures with eccrine features: A case study.	J Cutan Pathol.45(8):623-628,2018	Case report
63	Koga H, Kasprick A, López R, et al.	皮膚科	Therapeutic Effect of a Novel Phosphatidylinositol-3-Kinase $\delta$ Inhibitor in Experimental Epidermolysis Bullosa Acquisita.	Front Immunol.9:1558,2018	Original Article
64	Fujimoto K	放射線科	Radiological characteristics of interstitial lung diseases in patients with connective tissue disease: Focus on rheumatoid arthritis. Lung Disease Associated with Rheumatoid Arthritis, In Gono T, Tokuda H, Sakai F, Takemura T (eds)	Springer, Singapore, 117-140, 2018	Original Article
65	Kugiyama T	放射線科	A Rare Case of Cerebral Air Embolism Caused by Pulmonary Arteriovenous Malformation After Removal of a Central Venous Catheter.	Kurume Med J, 65(1):17-21, doi:10.2739/kurumemedj.MS651006, 2018	Case report
66	Sumi A	放射線科	Is there any consensus of long-term follow-up for incidental anterior mediastinal nodular lesions?	Shanghai Chest, doi:10.21037/shc.2018.12.01, 2018	Case report
67	荒田小夜, 平木照之, 谷口寛子, 他	麻酔科	プロタミン投与中に高度低血圧をきたした1症例	臨床麻酔 42(4):622-624, 2018	Case report



68	Kimura H, Hiraki T, Arata S Ushijima K	麻酔科	Anesthetic management of pleurectomy/decortication under differential lung ventilation	The Kurume Medical Journal 65(1):23-25, 2018	Case report
69	井上由衣、西尾由美子、太田 聡、他	麻酔科	経尿道的膀胱腫瘍切除術における閉鎖神経の刺激に起因した膀胱穿孔の4症例	臨床麻酔 42(12):1657-1659, 2018	Case report
70	花田美奈子、海田真治子、築地原幸子	看護部	22年前に禁制型尿路変向術を施行し、高齢となった患者の排尿管理と多職種との連携	日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 2018年11月, 22(3), p309-312.	Case report
71	平山陽子、田島理恵、石橋里紗、他	看護部	A大学病院中央手術部におけるインシデントレポートの分析	日本手術医学会誌, 2018.08, 43(6), p139-142	Original Article
72	橋田 竜騎	整形外科	当院での転倒・転落ワーキンググループの取り組みについて	久留米医学会雑誌 第81巻第1号 P29-36 2018年	Original Article
73	長藤 宏司	血液・腫瘍内科	微小残存病変を活用した成人Ph陰性ALLの治療(総説)	日本造血細胞移植学会雑誌 8巻1号 Page1-8(2019.01)	Original Article
74	山崎嘉孝、毛利文彦、大屋周期ほか	血液・腫瘍内科	視力障害としびれが初発症状のBing-Neel症候群	日本内科学会雑誌 107巻10号 Page2154-2159(2018.10)	Case report
75	大屋周期、山崎嘉孝、中村剛之ほか	血液・腫瘍内科	CSF3R遺伝子異常を認めた慢性好中球性白血病	久留米医学会雑誌 81巻11-12号 Page273-279(2018.12)	Case report

計75件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 任務、組織、議事、申請手続、審査、審査の方針 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 委員会の構成及び運用、委員会の審議事項 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 臨床研究、治験に関する臨床試験セミナーを実施している。	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

※別添 1 のとおり

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	193.86 人
-------------	----------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
※別添 2 のとおり			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

	診療科	研修内容	統括者氏名	
1	内科	上部内視鏡	消化器内科	鳥村 拓司
		腹部エコー		
		心臓カテーテル検査・冠動脈形成術・末梢動脈形成術	心臓・血管内科	福本 義弘
		心エコー・経食道エコー検査		
		ペースメーカー・除細動器植え込み術・心臓再同期療法術	腎臓内科	深水 圭
		血液透析を含む血液浄化に関する研修		
		ソマトスタチンアナログと人工膵臓によるインスリン抵抗性と膵β細胞機能の評価		
		エコーガイド下における甲状腺腫瘍に対する穿刺吸引細胞診	内分泌代謝内科	野村 政壽
2	小児科	心房中隔欠損症に対するカテーテル治療	小児科	山下 裕史朗
		Rett症候群に対するグレリン治療		
		ムコ多糖Ⅱ型患者に対する酵素補充療法		
		重症新生児仮死に対する脳低温療法		
3	整形外科	整形外科疾患に対する診察診断技術と術式の研修、手術期の管理	整形外科	志波 直人
4	形成外科・顎顔面外科	形成外科基本的理論研修(創傷治療、皮膚切開、皮膚縫合、真皮縫合、探皮、植皮)	形成外科・顎顔面外科	清川 兼輔
		形成外科基本的手術手技の研修(局所麻酔手術の執刀)		
5	脳神経外科	脳血管造影	脳神経外科	森岡 基浩
		穿頭手術		
		神経内視鏡手術		
6	外科	基礎的手術手技	外科	赤木 由人
		上部消化器(造影)検査		
		上部消化器(内視鏡)検査		
		下部消化器(造影)検査		
		下部消化器(内視鏡)検査		
		マンモグラフィ検査		
		乳腺エコー検査		
		ABI検査		奥田 康司
7	皮膚科	皮膚科学の各論および基本的手技に関する研修	皮膚科	名嘉真 武國
8	泌尿器科	腹部エコー	泌尿器科	井川 掌
9	産婦人科	ハイリスク妊婦に対する高度周産期医療	産婦人科	牛嶋 公正
10	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	耳鼻咽喉科疾患に対する診察診断技術と手術の研修、周術期の管理	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	梅野 博仁
11	精神神経科	精神神経科専門医研修	精神神経科	内村 直尚
12	歯科口腔医療センター	インプラント研修会	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
13	眼科	眼科基本的診察および治療の学習	眼科	吉田 茂生
14	放射線科	放射線治療位置決め並びに治療の理解に関する研修	放射線科	安陪 等思
		核医学の読影手技と適応疾患の理解に関する研修		
		IVRの手技の研修		
		CT、MRIの総合的画像診断学理解と読影手技の研修		
15	高度救命救急センター	重症外傷に対する初期診療(特にMT療法およびIABO/REBOAによる救急蘇生)研修	高度救命救急センター	高須 修
		心肺停止後蘇生患者および重症頭部外傷患者に対する体温管理法に関する研修		
		対外循環式心肺蘇生法(ECPR)に関する研修		
		ドクターカー・ドクターヘリを用いた病院前救急診療に関する研修		

## 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職	臨床経験年数	特記事項
星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	診療部長	30	
谷脇 考恭		診療部長	34	
井田 弘明		診療部長	31	
鳥村 拓司	消化器内科	診療部長	36	
福本 義弘	心臓・血管内科	診療部長	28	
深水 圭	腎臓内科	診療部長	26	
野村 政壽	内分泌代謝内科	診療部長	32	
長藤 宏司	血液・腫瘍内科	診療部長	30	
内村 直尚	精神神経科	診療部長	36	
山下 裕史朗	小児科	診療部長	36	
赤木 由人	外科	診療部長	32	
田中 啓之		診療部長	37	
奥田 康司		診療部長	40	
志波 直人	整形外科	診療部長	36	
清川 兼輔	形成外科・顎顔面外科	診療部長	35	
森岡 基浩	脳神経外科	診療部長	33	
八木 実	小児外科	診療部長	36	
名嘉真 武國	皮膚科	診療部長	31	
井川 掌	泌尿器科	診療部長	30	
牛嶋 公生	産婦人科	診療部長	35	
吉田 茂生	眼科	診療部長	24	
梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	診療部長	30	
安陪 等思	放射線科	診療部長	34	
楠川 仁悟	歯科口腔医療センター	診療部長	31	
平木 照之	麻酔科	診療部長	22	
高須 修	高度救命救急センター	センター長	29	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会 ・研修の期間・実施回数 12月7日（土）・1回 ・研修の参加人数 36名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 八木 実
管理担当者氏名	診療関係：各診療科部長 (別紙 1) 管理関係：事務部長 坂田 哲

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	病院日誌	・外部倉庫 ・病院資料室 ・各診療科医局・資料室 ・各診療科受付	① 紙媒体 <b>【入院】</b> 番号法：一元番号法 保管法：ターミナルデジット 保管対象：平成15年4月1日～平成25年9月30日 保管場所： 診療録・診療所記録 (外部倉庫) レントゲンフィルム (外部倉庫・診療科医局資料室) 一部は平成21年4月1日より情報システム室(病院)のPACSにて電子保存。(現在作業進行中) ※平成15年3月31日以前の診療録に関しては、各診療科の医局管理にて、資料室等に保管されているものもあり。 <b>【外来】</b> 番号法：一元番号法 保管法：ターミナルデジット 保管対象：最終来院日より10年以内のもの 保管場所： 最終来院日より1年以内 (各診療科受付) 最終来院日より1年～10年以内 (外部倉庫) 最終来院日より10年以上経過 (外部倉庫・病院資料室・診療科医局資料室) ② 電子媒体 <b>【入院・外来】</b> 平成25年10月1日以降の診療記録については、紙媒体で発生したものもスキャンし、全て電子媒体で保管。
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		

病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	管理課	部門ごとに、電子媒体や紙ファイルにて保管・管理している。 以下同じ
		高度の医療の提供の実績	管理課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	管理課	
		高度の医療の研修の実績	管理課	
		閲覧実績	管理課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	管理課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院経営室 薬剤部	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	



		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全管理事務室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全管理事務室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理事務室 臨床工学センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター		

感染関連マニュアル(紙媒体)

感染対策委員会会議資料、ICT会議資料(紙媒体)

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	高難度新規医療技術管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	未承認新規医薬品・医療機器管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室
		職員研修の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		管理者が有する権限に関する状況	管理課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	内部監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院経営室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

## 管理担当者一覧

診療科	管理担当者氏名	診療科	管理担当者氏名
呼吸器・神経・膠原病内科	星野 友昭	泌尿器科	井川 掌
消化器内科	鳥村 拓司	産婦人科	牛嶋 公生
心臓・血管内科	福本 義弘	眼 科	吉田 茂生
腎臓内科	深水 圭	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	梅野 博仁
内分泌代謝内科	野村 政壽	放射線科	安陪 等思
血液・腫瘍内科	長藤 宏司	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
精神神経科	内村 直尚	麻酔科	平木 照之
小児科	山下 裕史朗	高度救命救急センター	高須 修
外 科	赤木 由人	呼吸器病センター	星野 友昭
	田中 啓之	消化器病センター	鶴田 修
整形外科	志波 直人	循環器病センター	田中 啓之
形成外科・顎顔面外科	清川 兼輔	内科総合外来	深水 圭
脳神経外科	森岡 基浩	乳腺外科・一般外科総合外来	赤木 由人
小児外科	八木 実	薬剤部	福本 義弘
皮膚科	名嘉真 武國		

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 八木 実	
閲覧担当者氏名	診療関係：各診療科部長(別紙1) 管理関係：事務部長 坂田哲	
閲覧の求めに応じる場所	第3会議室	
閲覧の手続の概要 ・「病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧請求書」を提出し、病院長決済後、第3会議室にて閲覧。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 安全管理に関する基本的考え方</li><li>2. 安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本的事項</li><li>3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針</li><li>4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li><li>5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li><li>6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li><li>7. 患者からの相談への対応に関する基本方針</li><li>8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li></ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有 無 )</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 重大な問題その他委員会において取り扱う問題が発生した場合における速やかな原因究明のための調査及び分析、その結果を活用した医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策の立案、実施及び職員への周知</li><li>2. 改善のための方策の実施状況調査、必要に応じた当該対策の見直し</li><li>3. 医療の安全管理の啓発及びその評価を図るために必要な事項</li><li>4. 医療安全管理マニュアルの改訂及び各部署の安全対策に関する手順の作成指導</li><li>5. リスクマネジャー会議招集</li><li>6. 医療安全に係る患者からの相談に関する対応</li><li>7. 医療事故調査制度に基づく死亡症例に関する事項</li><li>8. その他委員会が必要と認める事項</li></ol> <p>主な内容：</p> <p>事件事例報告、各下部小委員会からの報告、警鐘事例報告、死亡症例報告、医薬品管理状況報告、監査委員会報告、福岡県四大学病院安全会議報告、日本医療機能評価機構からの事故情報報告、PMDAからの情報報告、医療安全関連規則制定・改廃審議、その他</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 31 回
<p>・ 研修の内容 (すべて)：別紙 1 のとおり</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	

(様式第 6-2)

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (  有  無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - ・ 医療安全推進委員会（多職種）での各部署の問題点抽出、計画、実施、評価  
改善活動を実施、中間及びまとめを委員会報告
  - ・ インシデント小委員会での内容の審議、対策立案、周知
  - ・ セイフティコントロール
  - ・ 医療安全管理対策委員会にて報告し各部署にて共有

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療関連感染対策に関する基本的な考え方</li><li>2. 委員会等の組織に関する基本的事項</li><li>3. 職員研修に関する基本方針</li><li>4. 感染発生状況の報告に関する基本方針</li><li>5. 感染発生時対応に関する基本方針</li><li>6. 指針の閲覧に関する基本方針</li><li>7. その他医療関連感染対策の推進のために必要な基本方針</li></ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>VRE積極的監視培養の結果報告、ICTからの活動報告（抗生剤適正使用状況監視、耐性菌サーベイランス結果報告、針刺し・切創報告、ICT活動（週1回程度の病棟ラウンド）状況、LN会活動状況報告等）</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 42 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>標準予防策、経路別感染予防対策、手指衛生、抗生剤適正使用、針刺し・切創対策、感染症トピックスなど</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>血培陽性者および感染症法に定められた感染症に関する菌（耐性菌）・ウイルスに関しては平日、感染制御部スタッフが電子カルテ上で確認、その都度アウトブレイク対応表に準じてICD/ICNが介入している。</p> <p>検査部門・全入院患者部門・NICU部門においてJANISに参加している。</p> <p>耐性菌発生時は状況に応じて、管轄保健所や九州厚生局などへの報告を行っている。</p> <p>院内感染対策推進として、院内でICT/LN活動を積極的に行い、病棟出張勉強会に力を注いでいる。</p> <p>院外では、地域病院と連携し研修・講習会等を実施している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

## 規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 ・ 研修の主な内容： 1. 平成30年4月2日 平成30年度新採用者オリエンテーション（臨床研修医） 「処方せんと医薬品の取り扱い」 2. 平成30年4月6日 東10階病棟勉強会 「レンビマカプセルについて」 3. 平成30年4月17日 第151回TQM講習会 「医薬品の安全使用について」 4. 平成30年5月15日 第152回TQM講習会 「当院における抗菌薬適正使用推進について」 5. 平成30年5月31日 東6階病棟勉強会 「麻薬の取り扱いについて」 6. 平成30年6月3日 平成30年度久留米大学病院看護師静脈注射研修 「IVナースインストラクターコース」 7. 平成30年6月15日 平成30年度新人看護師研修会 「薬剤の知識と危険性について～注射剤を中心に～」 8. 平成30年6月22日 西5階病棟勉強会 「産科で使う注射薬」 9. 平成30年8月28日 腎センター勉強会 「病棟・外来における注射薬調製時の注意点」	年 9 回
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 ・ 手順書の作成 (有 無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ・ 病棟・外来での医薬品（定数配置薬、麻薬、向精神薬、毒薬、消毒薬、医薬用外毒物・劇物を含む） 管理状況の定期的チェック（定数見直し、数、有効期限も含む） ・ 病棟・外来での医薬品情報の整理・周知状況の定期的チェック ・ 手順書遵守状況の確認（医薬品の受領、与薬、調製、ダブルチェック等）	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の 医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 1. 静脈栄養関連肝障害に対してω3系脂肪製剤オメガペンを使用（1例） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 未承認については未承認新規医薬品・医療機器管理部を担当部門として、未承認新規医薬品等評価 委員会を設置し適切な使用方法等を審議し、使用の情報を得ている。 ・ 未承認薬等医薬品の申請手続きの周知徹底を図るため、各診療科への「周知文」を毎年年度初めに 配布するとともに院内イントラネットに申請義務、内部通報、手順書を明示している。 ・ 適応外使用等については薬剤部において疑義照会で把握したものはDI室で情報を管理し、薬事委員 会、医薬品安全管理責任者へ報告し、病院倫理委員会への申請を促している。 ・ 最新の医薬品情報を収集、管理し、各職種に迅速に提供できる体制を整備している。緊急安全性情 報・安全性速報、PMDAおよび日本機能評価機構の医薬品に関する安全性情報等については、電子カル テシシステムのメッセージ機能により情報提供を行い、掲示板の「お知らせ」及び「薬剤部医薬品情報 室」に掲載し、文書でも関連部署に配布している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。



規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 57回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 人工呼吸器：患者さんに安全な人工呼吸器療法及び構造、アラームおよび対処法</li><li>・ 閉鎖式保育器：保育器管理におさえておきたい基本</li><li>・ 血液浄化装置：血液浄化の安全管理、緊急時及びアラーム時の対処について</li><li>・ 人工心肺装置及び補助循環装置：安全な取扱い、緊急時の対処法、日常の管理について</li><li>・ 除細動装置：基本的な構造及び使用方法、日常点検、注意事項について</li></ul></li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機器に係る計画の策定 (有 無)</li><li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 人工呼吸器、閉鎖式保育器、血液浄化装置、人工心肺装置及び補助循環装置、除細動装置については年に 1 回の定期点検及び必要な部品の交換、日常の保守管理を行っている。</li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 無)</li><li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)：</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器安全情報については多方面より情報の収集を行い、より重要な情報については、医療機器管理小委員会、医療安全管理対策委員会に報告、また、各病棟・外来、関係講座に「安全情報」として電子カルテ上に掲載することにより院内への周知をおこなっている。</li></ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 9 条の 20 の 2 第 1 項第 1 号から第 13 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有 無																																								
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 責任者の資格 (医師)・歯科医師)</li><li>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療安全管理部長を医療安全管理責任者として配置し、医療安全担当副院長である。</li><li>・ 医療安全、医薬品安全及び医療機器安全について必要な知識を有している。</li><li>・ 医療安全に関わる研修を定期的に受講している。</li></ul></li></ul> <p>(業務)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 病院長と連携し、医療安全に資する診療内容のモニタリング、医療安全の認識の浸透度の確認を行い、各部門の安全管理業務を把握する。</li><li>・ 専門分野責任者と連携し、各部門の安全管理を推進・指導する。</li><li>・ 医療事故、警鐘事例について周知・指導する。</li><li>・ 医療安全管理上の問題、対策について周知・指導する。</li></ul>																																									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2名) ・ 無																																								
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況<ul style="list-style-type: none"><li>・ 最新の医薬品情報を収集、管理し、各職種に迅速に提供できる体制を整備している。緊急安全性情報・安全性速報、PMDA および日本機能評価機構の医薬品に関する安全性情報等については、電子カルテシステムのメッセージ機能により情報提供を行い、掲示板の「お知らせ」及び「薬剤部医薬品情報室」に掲載し、文書でも関連部署に配布している。</li></ul></li><li>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況<ul style="list-style-type: none"><li>・ 未承認薬については未承認新規医薬品・医療機器管理部を担当部門として、未承認新規医薬品等評価委員会を設置し適切な使用方法等を審議し、使用の情報を得ている。</li><li>・ 未承認薬等医薬品の申請手続きの周知徹底を図るため各診療科への「周知文」を毎年年度初めに配布するとともに院内イントラネットに申請義務、内部通報、手順書を明示している。</li><li>・ 適応外使用等については薬剤部において疑義照会で把握したものは DI 室で情報を管理し、薬事委員会、医薬品安全管理責任者へ報告し、病院倫理委員会への申請を促している。</li></ul></li><li>・ 担当者の指名の有無 (有) 無</li><li>・ 担当者の所属・職種：<table border="0" data-bbox="204 1525 1299 1666"><tr><td>(所属：薬剤部</td><td>，</td><td>職種</td><td>薬剤師</td><td>)</td><td>(所属：</td><td></td><td>，</td><td>職種</td><td>)</td></tr><tr><td>(所属：</td><td></td><td>，</td><td>職種</td><td>)</td><td>(所属：</td><td></td><td>，</td><td>職種</td><td>)</td></tr><tr><td>(所属：</td><td></td><td>，</td><td>職種</td><td>)</td><td>(所属：</td><td></td><td>，</td><td>職種</td><td>)</td></tr><tr><td>(所属：</td><td></td><td>，</td><td>職種</td><td>)</td><td>(所属：</td><td></td><td>，</td><td>職種</td><td>)</td></tr></table></li></ul>		(所属：薬剤部	，	職種	薬剤師	)	(所属：		，	職種	)	(所属：		，	職種	)	(所属：		，	職種	)	(所属：		，	職種	)	(所属：		，	職種	)	(所属：		，	職種	)	(所属：		，	職種	)
(所属：薬剤部	，	職種	薬剤師	)	(所属：		，	職種	)																																
(所属：		，	職種	)	(所属：		，	職種	)																																
(所属：		，	職種	)	(所属：		，	職種	)																																
(所属：		，	職種	)	(所属：		，	職種	)																																
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有 無																																								
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) 無</li><li>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容<ul style="list-style-type: none"><li>・ 責任者をリスクマネジャー (診療部長) とする。</li><li>・ 診療録のインフォームド・コンセントに関する監査をサブリスクマネジャー (病棟医長) により実施、遵守状況はセーフティーコントロールチーム委員会巡回にて確認・指導している。</li></ul></li></ul>																																									

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有) 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療情報センター長を管理責任者として配置している。</li> <li>・ 診療情報システム管理委員会統括の下、定期的に相互監査（病棟医長・看護師長が相互に他診療科の診療録監査を行う）を実施している。相互監査はチェックリストに基づいて診療記録の内容を確認し、必要に応じて記載方法等について指導を行っている。</li> <li>・ 診療情報システム管理委員会統括の下、定期的に科内監査（診療部長・外来医長・病棟医長等で自らの診療科の診療記録監査を行う）を実施している。必要に応じて作成者へ指導を行っている。</li> <li>・ 監査の結果は、診療情報システム管理委員会へ報告し、必要に応じて啓蒙や是正勧告を行っている。</li> </ul> </li> </ul>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有) 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員：専従（6）名、専任（1）名、兼任（4）名 <ul style="list-style-type: none"> <li>うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名</li> <li>うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名</li> <li>うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</li> <li>うち臨床工学技士：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名</li> <li>うち事務職員：専従（2）名、専任（1）名、兼任（ ）名</li> </ul> </li> <li>(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</li> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療安全確保のための業務改善計画書を作成し、それに基づく各部門における医療安全対策実施状況を把握、分析し、医療安全に必要な業務改善等の具体的な対策を策定する。</li> <li>・ 事故その他の医療安全管理部門において取り扱うことが必要なものとして、病院長が認める事象が発生した場合における診療録及びその他の診療諸記録、患者及び家族への説明、その他の対応状況を把握し、当該事象の発生の原因の究明及び当該結果に基づく対策の実施等について職員へ指導する。</li> <li>・ 医療安全に資する診療内容のモニタリング及び医療安全の認識の浸透度の確認等を行う。</li> <li>・ 医療安全管理対策に係る体制を確保するための職員研修の企画、実施、実績を記録する。</li> <li>・ 医療安全管理対策に係る取り組みの評価等を行うカンファレンスを週1回開催する。</li> <li>・ 医療安全管理対策委員会との連携状況及び事務取扱に関すること。</li> <li>・ 患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取り扱いに関すること。</li> <li>・ 医療安全管理者の活動実績の記録に関すること。</li> <li>・ 医療事故、インシデントの収集と集計、分析、対策の実施に関すること。</li> <li>・ 医療機関等の医療安全に係る情報収集及び医療安全情報の発行、職員への周知及び指導に関すること。</li> <li>・ 医療安全に係る連絡調整に関すること。</li> <li>・ 医療安全管理マニュアル等の作成、整備に関すること。</li> <li>・ その他医療安全に関すること</li> </ul> </li> <li>※ 診療モニタリング <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全身麻酔手術件数に対する深部静脈血栓塞栓症予防対策実施率</li> <li>・ 看護師必須同席と定めたIC同席率</li> <li>・ 転倒・転落発生率</li> <li>・ IC実施に関する監査</li> <li>・ 検査結果報告書見落とし防止策の実施状況</li> </ul> </li> </ul> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

<p>⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（4件）</li><li>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li><li>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li><li>・活動の主な内容： 高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等に関する委員会を開催し、その意見を踏まえて、当該高難度新規医療技術の提供、実施を認める条件等について決定した上で、診療科の長に対しその結果を通知する。 定期的に手術記録、診療録等の記載内容を確認し、当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたか否かを確認する。また、必要に応じて報告書等の提出を依頼する。 決定事項、確認事項等について病院長に報告する。</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li><li>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li></ul>
<p>⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（4件）</li><li>・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li><li>・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li><li>・活動の主な内容： 未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等に関する委員会を開催し、その意見を踏まえて、未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について決定した上で、診療科の長に対しその結果を通知する。 定期的に診療録等の記載内容を確認し、当該未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたか否かを確認する。また必要に応じて報告書等の提出を依頼する。 決定事項、確認事項等について病院長に報告する。</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li><li>・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li></ul>
<p>⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年391件（死産26件）</li><li>・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年40件</li><li>・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容<ul style="list-style-type: none"><li>・死亡症例報告件数、報告状況、医療事故調査支援センターへの報告状況の共有</li><li>・報告すべき有害事象に関する報告内容検討</li></ul></li></ul>
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・他の特定機能病院等への立入り（<input checked="" type="radio"/>有（病院名：愛知医科大学病院）・無）</li><li>・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（<input checked="" type="radio"/>有（病院名：愛知医科大学病院）・無）</li><li>・技術的助言の実施状況<ul style="list-style-type: none"><li>・インシデント、アクシデント報告件数が、病床数1,000床に対して少ないため、報告件数増加に</li></ul></li></ul>

向けた取り組みをされた方が良いと思われる。

- ・病棟の内服カートについて、カートへの薬剤セットを看護師が行っているため、仕事量や安全面のことを考えた場合、各病棟に配置されている病棟薬剤師の業務とするなどの検討が必要であると思われる。
- ・内服カートの仕様に統一性がなく、今後予約時間毎にセットでき、氏名表示ができる統一した仕様のものに変更することが望ましい。
- ・化学療法を受ける患者に対し、薬剤管理指導や説明を行うことが出来る薬剤師の数が少ないため、増員の考慮が必要であると思われる。
- ・臨床工学技士の人数が 22 名であるが、病床数等から考えると、増員された方が良いと思われる。
- ・新しい医療機器の導入時には、医療機器安全管理責任者が使用予定者をあらかじめ把握し、使用予定者全員に対して研修を実施するよう体制整備を図られた方が良いと思われる。
- ・各医局が各々購入した医療機器について、機器の内容がしっかり把握されているが、当該機器の保守を今後どのように進めていくかを、しっかり検討された方が良いと思われる。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

- ・患者相談窓口に関する規約に沿って実施
- ・医療安全管理部は、相談窓口担当者と連携を図り、医療安全対策に係る患者・家族の相談に適切に応じる体制を支援
- ・医療安全に関する相談について、医療安全管理部医療安全管理者が対応する。
- ・医療安全管理対策委員会で報告
- ・相談窓口は、医療連携センターにおき、患者から受けた相談について、担当部署で審議対応する。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

- ・別紙 1 のとおり

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

- ・久留米市保健所主催医療安全対策研修会
- ・九州厚生局医療安全ワークショップ
- ・日本病院薬剤師会医薬品安全管理者責任者講習会
- ・特定機能病院管理者養成研修 (日本医療機能評価機構)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

平成30年度安全管理研修会受講者数(対象者)(DVD受講者含む。)

日 時	開催時間	内 容	講 師	医 師	看護業務者 コメディカル (if あり)	計	その他	備考	開 催 場 所
4月9日(木) 5月14日(月) ~8月31日(金)	18時00分~18時30分 — —	医療安全管理研修 安全管理研修—Learning(平成30年度上半期課題)医療安全の基本を知る	医療安全管理部 川野 佐由里 先生 上野中央総合病院 特任副院長 長谷川 剛 先生	0 86	1 21	0 672	0 0		病院本館2階第1会議室 —
4月17日(火)	17時30分~18時00分	第151回ITQI講習会 医療品の安全管理について	薬剤部 小森 美佳 先生	42 12	68 0	381 38	0 0		筑水会館2階 イベントホール ・中会議室
5月17日(木) (日) 5月18日(金) 5月25日(金) 5月26日(土)	17時30分~18時30分 — — — —	医療に係る安全管理及び院内感染対策のDVD研修会 ・インシデント・医療事故と対策、医療訴訟 ・久留米大学病院における職業感染症予防対策	医療安全管理部 副部長 横山 晋二 先生 感染制御部 部長 渡邊 浩 先生	158	240	84 1,024	0		筑水会館2階イベントホール 築水会館2階イベントホール
6月7日(木) 11月11日(月)	13時00分~18時00分	第11回 看護動手研修	医療安全管理部 川野 佐由里 先生	0	88	0	1	委託職員(1名)	病院本館2階第1会議室
6月12日(火)	9時00分~9時30分	AFF輸液ポンプ、輸液ラインの使用法	医療安全管理部 川野 佐由里 先生	45	6	298	0		高度救命救急センターカンファレンス室 病院本館2階第1、4会議室
6月21日(木)	17時30分~18時30分	久留米大学病院輸血マニュアルの改訂について 医療機器の安全管理について	臨床検査部 江頭 弘一 先生 臨床工学センター 吉田 圭介 先生	13 2	21 0	9 11	0		筑水会館2階イベントホール
7月5日(木)	17時00分~18時00分	安全な輸液ライン管理を理解しよう！	医療安全管理部 川野 佐由里 先生	0	59	0	0		病院本館2階第1会議室
7月17日(火)	17時30分~18時00分	第154回ITQI講習会 ・これからの病棟管理とクリニカルパスのアップデート	医療情報センター 副センター長 七裡 伸行 先生	75 21	142 0	265 28	0		筑水会館2階イベントホール
8月17日(金)	17時30分~18時00分	第155回ITQI講習会 ・RRS精染の取り組み	高度救命救急センター 副センター長 山下 典雄 先生	32 17	167 6	12 23	0		筑水会館2階イベントホール
9月1日(土) 9月1日(土) 9月31日(木)	— — —	安全管理研修—Learning(平成30年度下半期課題)医薬品安全管理 安全管理研修—Learning(平成30年度下半期課題)医療ガス	薬剤部 小森 美佳 先生 臨床工学センター 技師長 杉原 学 先生	114 124	505 517	10 9	653 881		
9月1日(土) 9月4日(木)	17時00分~17時30分	医療ガスに係る安全講習会	臨床工学センター 技師長 杉原 学 先生	29	68	19	139	0	病院本館2階第1、第2会議室
9月21日(金)	17時30分~18時30分	第156回ITQI講習会 ・当院における災害対応 ・血液培養について	高度救命救急センター 副センター長 山下 典雄 先生 感染制御部 副部長 後藤 憲志 先生	87 276	221 15	34 2	430 298	0	筑水会館2階イベントホール、1階中会議室
10月19日(金)	17時30分~18時30分	第157回ITQI講習会 ・手術部位感染 ・喫下課題→日々の安全なケアについて~	形成外科・顎顔面外科 山内 大輔 先生 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 宮崎雄士 清川 幸世 先生	70 196	252 7	35 1	433 207	0	筑水会館2階イベントホール、1階中会議室
9月20日(木) 11月13日(水)	17時00分~17時30分 17時00分~18時00分	IVナーシングストラクターコース 課題実践計画発表会 造影剤及び抗がん剤精製法に対するスキルドナー育成研修	医療安全管理部 川野 佐由里 先生 医療安全管理部 川野 佐由里 先生	0 0	16 34	0 0	16 34	0 0	病院本館2階第1会議室 病院本館2階共用カンファラーム
11月15日(木)	17時30分~18時30分	第158回ITQI講習会 ・インフォームド・コンセントについて ・安全に緩和ケアの薬剤を使用するために	医療安全管理部 副部長 横山 晋二 先生 緩和ケアセンター センター長 福重 哲志 先生	42 10	93 4	10 14	177 0	0	筑水会館2階イベントホール
11月19日(月) 11月28日(水)	17時00分~18時00分 17時00分~18時00分	医療機器安全講習会「除細動器について」 医療機器安全講習会「補助循環・人工心臓」	臨床工学センター 村松 智希 先生 臨床工学センター 技師長 杉原 学 先生	0 0	8 13	0 0	16 25	0 0	病院本館2階第1会議室 病院本館2階第1会議室
11月29日(木)	17時00分~18時00分	AED説明会	日本光電工業株式会社	3	0	0	25	0	病院本館3階リハビリテーションホール
12月2日(日)	8時30分~13時00分	平成30年度 病院災害訓練	—	54	72	30	193	5	病院本館2階第1会議室
12月4日(火)	17時00分~18時00分	医療機器安全講習会「閉鎖式保胎器」	臨床工学センター 大熊 仁寛 先生	0	10	0	15	0	病院本館2階第1会議室
12月18日(火) 1月18日(金) 1月31日(木)	17時30分~18時30分 — —	第159回ITQI講習会 ・消化するクリニカルパス—公認地区の消化器科(GKD)地域連携推進をめざして— ・消化するクリニカルパス—経腸栄養に着手した入退院の改訂—	腎臓内科 講師 甲斐田 裕介 先生 整形外科 准教授 山田 圭 先生	34 35	66 1	11 0	137 38	0	筑水会館2階イベントホール
1月7日(月) 1月18日(金) 1月31日(木)	17時30分~18時30分 — —	院内救急蘇生講習会 第160回ITQI講習会 ・脂肪肝のリスクマネジメント：肝がんになる脂肪肝は？	高度救命救急センター 副センター長 山下 典雄 先生 他 消化器内科 講師 川口 巧 先生	44 27 10	29 60 1	12 16 0	134 128 12	0 0 0	筑水会館2階イベントホール 筑水会館2階イベントホール

平成30年度安全管理研修会受講者数(対象者)(DVD受講者含む。)

日	時	開催時間	内 容	講 師	医 師	看護業務者	コメディカル (PT, OT, ST)	計	その他	備考	開 催 場 所
27	1月25日(金)	17時00分~18時00分	医療機器安全講習会(血液透析療法について)	福床工学センター 天神原 崇 先生	0	14	16	30	0		病院本館2階第1会議室
28	1月25日(金)	18時00分~18時45分	事故発生時の対応	医療安全管理部 川野 佐由里 先生	0	9	0	9	0		看護部図書室
29	2月5日(火)	17時00分~18時00分	医療機器安全講習会「人工呼吸器の安全講習」	福床工学センター 技師長 杉原 学 先生	1	17	12	30	1	学生1名	病院本館2階第1会議室
30	2月21日(木)	17時30分~18時30分	第162回TQM講習会 ・外部監査委員会報告、 検査結果発表等とし、説明未実施防止対応班 ・働き方改革1	医療安全管理部 早川 晴美 先生 男女共同参画推進委員会 守屋 晋八子 先生	18	43	19	7	87		
					25	9	1	1	36	0	
31	3月15日(金)	17時30分~18時30分	第163回TQM講習会<TQM大会> ・進化するクリニカルパス~周手術期の疼痛緩和に向けたパス の改訂~ ・はじめよう！ スキルアップ対策~標準対策チームの取り組み ~ ・中央手術部における針刺し・切創・体液曝露の対策について 平成30年度 NST活動報告~多職種・他チームとの連携 を中心に~ ・つらさのスクリーニング実施報告 ・働き方改革を医療安全からローラーニングを導入して~	バス担当 若手会 S ICU 大塚安純 先生 標準対策チーム 高木 孝実 先生 中央手術部 主任看護師 二田水 裕子 先生 栄養サポートチーム S ICU 尾花 和枝 先生 緩和ケアチーム 専任看護師 村上 美樹 先生 医療安全管理部 専務室 江島 正剛 先生	42	89	29	9	169		
					57	2	3	1	63	3	学生3名
計					1,336	4,332	958	388	7,014	10	
					661	87	15	5	768		

※ 下段はDVD受講者数

医 師	看護業務者	コメディカル (PT, OT, ST)	計	その他
1,336	4,332	958	388	7,014

平成30年度受講者数

現員数(年度平均)

参加率

622	1,142	362	158	2,284
-----	-------	-----	-----	-------

214.8%	379.3%	264.6%	245.6%	307.1%
--------	--------	--------	--------	--------

平成30年度感染管理研修会受講者数(DVD受講者含む。)

日 時	開催時間	内 容	講 師	医 師	看護職員	コメディカル	事務局	計	その他	備考	開催場所
1	5月15日(火)	17時30分~18時00分	第152回TQM講習会 ・「FAX送付後および郵便物送付防止」マニュアルについて ・ 当院における抗菌薬適正使用推進について	医療連携センター 副センター長 山口 圭三 先生 感染部 内藤 哲哉 先生	106	331	104	39	580	0	水会館2階 イベントホール ・中会議室
2	5月16日(水)	14時00分~14時30分	・手指衛生の奨励について	感染制御部 副部長 三浦 美穂 先生	2	16	3	0	21	0	SICUSタフフステーション
3	5月18日(金)	17時00分~17時30分	・PPEの着脱法を学ぼう(1)	感染制御部 神田 文代 先生	0	0	25	0	25	0	リハビリテーション室
4	5月18日(金)~5月23日(水)	9時00分~9時30分	・PPEの着脱法を学ぼう(2)	感染制御部 神田 文代 先生	21	64	6	0	91	10	学生(8名) 教命士(2名)
5	5月25日(金)	13時00分~13時30分	・耐性菌予防のエビデンス/医師向け	感染制御部 部長 渡邊 浩 先生	20	16	3	0	39	1	教命士(1名)
6	5月14日(月)~	-	・手洗い演習	感染制御部 三浦 美穂 先生・神田 文代 先生	242	833	154	108	1,337	4	学生(3名) 外部者(1名)
7	6月1日(金)	15時00分~16時00分	・SICUにおける看護師の術後感染対策	感染制御部 副部長 三浦 美穂 先生	0	5	0	0	5	0	SICUSタフフステーション
8	6月7日(水) 11(月) 18(月) 28日(水) (臨時) 3月25日(月)~ 3月27日(水)	17時30分~18時30分	医療に係る安全管理及び院内感染対策のDVD研修会 ・インシデント・医療事故と対策、医療訴訟 ・久留米大学病院における職業感染予防対策	医療安全管理部 副部長 横山 晋二 先生 感染制御部 部長 渡邊 浩 先生	158	542	240	84	1,024	0	水会館イベントホール
9	6月7日(水) 11(月)	13時00分~16時00分	・第1回 看護助手研修	感染制御部 神田 文代 先生	0	88	0	0	88	1	委託職員(1名)
10	6月9日(土)	9時00分~12時30分	・専門領域看護教育:感染管理 自己啓発	感染制御部 三浦 美穂 先生 江崎 裕子 先生	0	20	0	0	20	0	病院本館2階第1会議室
11	6月26日(水)~6月27日(木)	11時00分~11時30分	・中央滅菌材料部における感染対策	感染制御部 副部長 三浦 美穂 先生	0	1	0	0	1	25	外部委託業者(26名)
12	7月3日(火)	16時00分~16時30分	・標準予防策の重要性について	感染制御部 部長 渡邊 浩 先生	21	13	0	0	34	0	中央滅菌材料部 外科5階カンファレンスルーム
13	8月6日(月)~	-	・末梢静脈カテーテルにおける血流感染対策について	感染制御部 神田 文代 先生	36	320	2	1	359	0	SICUSタフフステーション他
14	8月7日(火) 21日(火) 28日(火)	9時00分~11時00分 13時30分~15時00分	・N95マスクフィットテスト大会	感染制御部 神田 文代 先生	70	361	56	11	488	1	派遣職員(1名)
15	8月7日(火)	18時00分~19時00分	・多職種で読むC. difficile感染の治療、感染管理	兵庫医科大学 竹末 圭生 先生 兵庫医科大学病院 木下 薫 先生 兵庫医科大学病院 植田 真史 先生	2	11	1	0	14	0	病院本館2階第1会議室
16	8月8日(水)	17時00分~17時30分	・病理科における結核対策について	感染制御部 部長 渡邊 浩 先生	7	2	12	1	22	0	病院北館3階 病院病理科
17	8月9日(木)	17時00分~17時30分	・CRE感染予防と体液曝露について	感染制御部 部長 渡邊 浩 先生 感染制御部 神田 文代 先生	22	21	1	0	44	0	東棟6階新幹線カンファレンス室
18	8月28日(火)	17時00分~17時30分	・病棟、外来における注射薬調製時の注意点	薬剤部 酒井 義昭 先生	0	11	0	0	11	0	腎センター



平成30年度感染管理研修会受講者数 (DVD受講者含む。)

日	時	開催時間	内容	講師	医師	看護員	薬剤師	計	その他	備考	開催場所
19	9月3日(月)	17時00分~17時30分	-CDIの対策について	感染制御部 副部長 三浦 美穂 先生	0	17	0	17	0		西棟11階研修カンファレンス室
20	8月1日(水)~	-	・輸液ラインの適切な消毒方法 ・集中室について手指衛生の演習	感染制御部 部長 渡邊 浩 先生 感染制御部 副部長 三浦 美穂 先生	1	49	0	50	65	外部委託業者(愛恵会)	中央手術部他
21	9月13日(木)	15時00分~16時00分	・リネン業者に必要の感染対策豆知識	感染制御部 裨田 文代 先生					20	外部委託業者(精久)	御井学生学生会館
22	9月12日(水)・9月19日(水)	15時00分~18時00分	・感染症インナーネット講習会	感染制御部 部長 渡邊 浩 先生	0	10	1	11	0		共用カンファレンス室
23	9月20日(木)	18時00分~19時00分	・CDI WEB シンポジウム	感染制御部 部長 渡邊 浩 先生	3	18	1	22	0		病院本館2階第4・第5会議室
24	9月20日(木)	12時30分~13時00分 15時30分~16時00分	・清掃員に必要な感染対策	感染制御部 裨田 文代 先生					82	外部委託業者(九州ビルサービス)	医学部日棟 2階
25	9月20日(木)	17時30分~18時30分	第156回TQM講習会 ・当院における災害対応 ・血液培養について	高度救命救急センター 副センター長 山下 典博 先生 感染制御部 副部長 後藤 憲志 先生	87	221	88	34	430		西棟12階面談指導室
26	9月21日(金)	17時30分~18時30分	・手指衛生について	感染制御部 副部長 三浦 美穂 先生	0	12	0	12	0		東棟12階面談指導室
27	9月25日(火)	17時00分~17時30分	・中央手術部における耐菌し・切断線防止のためのDVD講習	-	0	51	0	51	0		中央手術部
28	9月18日~9月27日	-	・血流感染対策・輸液ルートの手洗いについて	感染制御部 副部長 三浦 美穂 先生	0	56	0	56	0		SICUスタッフステーション
29	10月1日(月)	14時00分~14時30分	・手術室の消毒について	感染制御部 副部長 三浦 美穂 先生	0	0	0	0	27		総合診療棟4階共同カンファレンス室
30	10月2日(火)	17時40分~18時10分	・手術室の消毒について	感染制御部 副部長 三浦 美穂 先生	0	0	0	0	27		総合診療棟4階共同カンファレンス室
31	10月19日(金)	17時30分~18時30分	第157回TQM講習会 ・手術部位感染 ・低下曝露~日々の安全なケアについて~	形成外科・顎顔面外科 山内 大輔 先生 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 高橋 登士 濱川 幸生 先生	70	252	76	35	433		西棟12階面談指導室
32	10月31日(水)	17時30分~18時30分 18時30分~19時30分	・感染症インナーネット講習会 ・CDI 診療ガイドラインと今後の展望 ・MRSA感染症の最新の話題	・聖マリアンナ医科大学 岡島 広之 先生 ・北里大学北里生命科学研究科 花木 秀明 先生	1	9	1	11	0		共用カンファレンス室
33	11月12日(月)~	17時00分~17時30分	血流感染予防(コネクタのハブの消毒について)	感染制御部 副部長 三浦 美穂 先生	0	49	0	49	0		東棟1階研修スタッフステーション他
34	11月14日(水)	18時00分~19時50分	感染症インナーネット講習会 ・CDI 診療ガイドラインを踏まえた新たな治療戦略	長崎大学 臨床検査医学 柳原 京紀 先生	0	5	6	11	0		病院本館2階第3会議室
35	12月5日(水)	18時00分~19時30分	経路について	感染制御部 部長 渡邊 浩 先生	14	21	3	38	0		病院本館2階第1会議室
36	12月12日(水)	17時00分~17時30分	感染症患者のアセスメントと感染対策・看護への活用	感染制御部 裨田 文代 先生	0	11	0	11	0		西棟12階研修カンファレンス室
37	12月19日(水)	17時30分~18時30分	血液感染と血液培養について	感染制御部 部長 渡邊 浩 先生	3	11	0	14	0		西棟10階研修カンファレンス室
38	12月21日(金)	7時30分~18時00分	第160回TQM講習会 ・2018/2019シーズンのインフルエンザ	薬剤部 酒井 雅則 先生	38	82	41	28	189		薬水会館2階イベントホール
39	12月27日(木)	16時45分~17時15分	冬場に流行するインフルエンザとノロウイルス対策	感染制御部 裨田 文代 先生	0	10	2	12	0		東棟11階研修カンファレンス室
40	1月17日(木)	18時00分~19時00分	H1V/AIDSの患者の栄養管理	感染制御部 副部長 三浦 美穂 先生	0	0	15	15	0		病院本館2階 第4会議室
41	1月18日(金)	12時30分~12時45分 15時30分~15時45分	・インフルエンザ予防	感染制御部 裨田 文代 先生							医学部日棟 2階
42	1月16日(水)・23日(水)	15時00分~15時45分 30分	・インフルエンザ予防	感染制御部 裨田 文代 先生					60	外部委託業者(九州ビルサービス)	医学部日棟 2階
43	1月26日(月)~	18時45分~17時15分	・血流感染について(演習)	感染制御部 副部長 三浦 美穂 先生	0	106	0	106	0		総合診療棟4階共同カンファレンス室
44	2月5日(火)	17時00分~17時30分	・個人防護具の着脱演習と抗生薬の適正使用	感染制御部 裨田 文代 先生	12	5	3	20	0		東棟11階研修カンファレンス室
45	3月7日(木)	16時30分~17時00分	・血流感染対策と血液培養の注意点	感染制御部 副部長 三浦 美穂 先生	1	11	0	12	0		西棟7階研修スタッフステーション

平成30年度感染管理研修会受講者数 (DVD受講者含む。)

日 時	開催時間	内 容	講 師	医 師 看護業務者 コメディカル	計	その他	備考	開 催 場 所		
46 3月14日(木)	18時00分~17時00分	食中毒予防について	感染制御部長 東邊 浩 先生 感染制御部長 副部長 三浦 美穂 先生	42	98	29	9	169	64 外部委託業者 (愛蓮堂)	病院本館2階第1会議室
47 3月15日(金)	17時30分~18時30分	第163回TQM講習会<TQM大会> ・速化するクリニカルパス~開手術前の疼痛緩和に向け たパスの改訂~ ・はじめよう! スキンケア対策~褥瘡対策チームの取 組等~ ・中央手術部における針刺し・切創・体液曝露の対策に ついて ・平成30年度 NST活動報告~多職種・他チームと の連携を中心に~ ・つらさのスクリーニング実施報告 ・働き方改革を医療安全から~ ・ラーニングを導入し て	バス担当学会 SICU 大塚愛織 先生 褥瘡対策チーム 高木 孝美 先生 中央手術部 主任看護師 二田水 裕子 先生 栄養サポートチーム SICU 尾花 和枝 先生 緩和ケアチーム専従看護師 村上 幸樹 先生 医療安全管理事務室 江島 正剛 先生	57	2	3	1	63	3 学生3名	筑水会館2階イベントホール
計				979	3,687	900	350	5,916	358	
				801	57	16	5	879		

※ 下段はDVD受講者数

医 師	看護師	コメディカル	計	その他
979	3,687	900	5,916	358

平成30年度受講者数

現員数 (年度平均) 362 158 2,284

参加率

157.4%	322.9%	246.6%	221.5%	259.0%
--------	--------	--------	--------	--------

規則第 7 条の 2 第 1 項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 基準の主な内容</li><li>(1) 医師免許を有している者</li><li>(2) 高度な医療を司る病院の管理運営上必要な資質・能力を有する者</li><li>(3) 医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者</li><li>(4) 久留米大学医学部附属病院及び同医療センターにおいて、各々が掲げる理念・目標を実現するために必要な資質・能力を有する者</li><li>(5) 病院等の臨床系の教授である者</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 公表の方法 大学ホームページ</li></ul>

規則第 7 条の 3 第 1 項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( 有・無 )</li><li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( 有・無 )</li><li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( 有・無 )</li><li>・ 公表の方法</li></ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
別紙 1 のとおり				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第 9 条の 2 3 第 1 項及び第 2 項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>		
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>(1) 大学病院の規則に関する事項</p> <p>(2) 大学病院の管理運営に関する重要事項</p> <p>(3) 臨床研修に関する事項</p> <p>(4) その他重要事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>診療部長会メンバー以外に、事務・コメディカル等の各部門（所属）長も陪席で会議に参加している。会議終了後、会議参加者より各部門の職員へ周知を行っている。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無 (有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> )</p> <p>・公表の方法</p> <p>大学内イントラネットに掲載している。</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無 (有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> )</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
別紙 2 のとおり			

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (有、無 )
- 公表の方法  
大学内イントラネットに掲載している。
- 規程の主な内容
  - (1) 大学病院に病院長及び副院長を置く。
  - (2) 病院長は、久留米大学医学部附属病院長等選考内規に基づき選出し、理事長が選任する。
  - (3) 副院長は、病院長が選定し、診療部長会の上を承認するものとする。
  - (4) 副院長は、前項で選定された者の他、医療安全管理部、医療安全管理対策委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務を統括する医療安全管理責任者及び看護部長が就く。
  - (5) 病院長は、大学病院全般の管理、運営にあたる。
  - (6) 副院長は、病院長を補佐し、病院長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割  
副院長：病院長を補佐し、病院長に事故があるときは、その職務を代行する。  
  
病院長特別補佐：病院長を補佐し、大学病院の運営全般に関し、病院長に助言等を行うとともに、病院長が必要と認める事項について業務を行うものとする。
- 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
各種委員会の委員長等に就任及び運営すること等を通じて、病院長の指示のもとに病院経営・運営の一端を担うことができ、病院のマネジメント力に資する有効な経験を積むことができている。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する  
状況

監査委員会の設置状況	有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 平成 31 年 1 月 30 日 久留米大学病院医療安全監査委員会実施 令和元年 9 月 19 日 久留米大学病院医療安全監査委員会実施</p> <p>・ 活動の主な内容： 福岡大学病院から 3 名（医師、看護師、薬剤師）、医療を受ける者 1 名を委員として実施 産業医科大学病院から 3 名（医師、看護師、臨床工学技士）、医療を受ける者 1 名を委員として実施</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 <input checked="" type="radio"/> 有・無 )</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 <input checked="" type="radio"/> 有・無 )</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 <input checked="" type="radio"/> 有・無 )</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 <input checked="" type="radio"/> 有・無 )</p> <p>・ 公表の方法： ホームページで公表</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
古賀 和徳	産業医科大学 病院	○	医療安全の知識を持 つ医師	有・無 <input checked="" type="radio"/>	1
松野 修一	産業医科大学 病院		医療安全の知識を持 つ看護師	有・無 <input checked="" type="radio"/>	1
高橋 一久	産業医科大学 病院		医療安全の知識を持 つ臨床工学技士	有・無 <input checked="" type="radio"/>	1
平田 ナツ子			医療を受ける者	有・無 <input checked="" type="radio"/>	2
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容  
学校法人久留米大学内部監査室を設置している。  
内部監査規程に基づき活動を行っている。
- ・ 専門部署の設置の有無 (  有  無 )
- ・ 内部規程の整備の有無 (  有  無 )
- ・ 内部規程の公表の有無 (  有  無 )
- ・ 公表の方法  
大学内イントラネットに掲載している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<p>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院の管理運営に関する重要事項を監督する委員会として、理事長の下に久留米大学病院経営企画委員会を設置している。委員には法人理事も含まれており、病院の管理運営に関する事項、稼働状況に関する事項、事業計画に関する事項等について審議している。</p> <p>・ 会議体の実施状況 ( 年 6 回 )</p> <p>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ) ( 年 6 回 )</p> <p>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 )</p> <p>・ 公表の方法 大学内イントラネットに掲載している。</p>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。



規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 通報件数 (年 0 件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 周知の方法</li></ul> <p>院内通知および医療安全管理マニュアルへ掲載</p>

## 令和元年度 久留米大学医学部附属病院院長等候補者選考委員会 名簿

No	氏名	カナ氏名	所属	職名	選定理由	備考
1	有馬 彰博	アリマ アキヒロ	久留米大学	常務理事	久留米大学医学部附属病院院長等候補者選考委員会要項 第2条第1項に基づき、理事長が指名する理事	
2	永田 見生	ナガタケンセイ	久留米大学	学長	久留米大学医学部附属病院院長等候補者選考委員会要項 第2条第2項に基づき、学長	
3	矢野 博久	ヤノヒロサ	久留米大学	医学部長	久留米大学医学部附属病院院長等候補者選考委員会要項 第2条第3項に基づき、医学部長	
4	上野 知昭	ウエノチカキ	久留米大学	医学部附属病院 看護部長	久留米大学医学部附属病院院長等候補者選考委員会要項 第2条第4項に基づき、医学部附属病院看護部長	
5	大塚 まり子	オツカマリコ	久留米大学	医学部附属医療センター 看護部長	久留米大学医学部附属病院院長等候補者選考委員会要項 第2条第4項に基づき、医学部附属医療センター看護部長	
6	高木 一希	タカキカスエキ	久留米大学	事務局長	久留米大学医学部附属病院院長等候補者選考委員会要項 第2条第5項に基づき、事務局長	
7	住本 英樹	ズミトヒデキ	九州大学	大学院医学研究院 教授	久留米大学医学部附属病院院長等候補者選考委員会要項 第2条第6項に基づき、理事長が委嘱する学外の有識者	前九州大学医学部長
8	朔 啓二郎	サクケイジロウ	福岡大学	医学部長	久留米大学医学部附属病院院長等候補者選考委員会要項 第2条第6項に基づき、理事長が委嘱する学外の有識者	元福岡大学副病院長
9	上野 高史	ウエノタカシ	久留米大学	医学部附属病院 副院長	久留米大学医学部附属病院院長等候補者選考委員会要項 第2条第7項に基づき、その他理事長が必要と認める者	
10	中島 宗敏	ナカシマムネシ	久留米大学	医学部附属医療センター 副院長	久留米大学医学部附属病院院長等候補者選考委員会要項 第2条第7項に基づき、その他理事長が必要と認める者	
11	松田 峻一良	マツダ シュンイチロウ	福岡県医師会	会長	久留米大学医学部附属病院院長等候補者選考委員会要項 第2条第7項に基づき、その他理事長が必要と認める者	
12	田中 二三郎	タナカフミオ	久留米医師会	会長	久留米大学医学部附属病院院長等候補者選考委員会要項 第2条第7項に基づき、その他理事長が必要と認める者	

様式6-3(別紙2) 診療部長会名簿

No.	メンバー名	職種	役職(部署名)
1	八木 実	医師	小児外科診療部長
2	鳥村 拓司	医師	消化器内科診療部長
3	上野 高史	医師	メディカルセンター専任部長
4	田中 芳明	医師	医療安全管理部長
5	渡邊 浩	医師	感染制御科診療部長
6	福本 義弘	医師	心臓・血管内科診療部長
7	高須 修	医師	高度救命救急センター長
8	上野 知昭	看護師	看護部長
9	志波 直人	医師	整形外科診療部長
10	星野 友昭	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
11	谷脇 考恭	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
12	井田 弘明	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
13	川山 智隆	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
14	光山 慶一	医師	消化器内科診療部長
15	古賀 浩徳	医師	消化器内科診療部長
16	黒松 亮子	医師	消化器内科診療部長
17	野村 政壽	医師	内分泌代謝内科診療部長
18	深水 圭	医師	腎臓内科診療部長
19	長藤 宏司	医師	血液・腫瘍内科診療部長
20	古賀 靖敏	医師	小児科診療部長
21	山下 裕史朗	医師	小児科診療部長
22	須田 憲治	医師	小児科診療部長
23	安陪 等思	医師	放射線科診療部長
24	藤本 公則	医師	放射線科診療部長
25	内村 直尚	医師	精神神経科診療部長
26	名嘉眞 武國	医師	皮膚科診療部長
27	赤木 由人	医師	外科診療部長
28	田中 啓之	医師	外科診療部長
29	奥田 康司	医師	外科診療部長
30	光岡 正浩	医師	外科診療部長
31	唐 宇飛	医師	外科診療部長

様式6-3(別紙2) 診療部長会名簿

No.	メンバー名	職種	役職(部署名)
32	森岡 基浩	医師	脳神経外科診療部長
33	廣畑 優	医師	脳神経外科診療部長
34	吉里 俊幸	医師	産科診療部長
35	牛嶋 公生	医師	婦人科診療部長
36	井川 掌	医師	泌尿器科診療部長
37	梅野 博仁	医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療部長
38	白濱 正博	医師	整形外科診療部長
39	佐藤 公昭	医師	整形外科診療部長
40	平木 照之	医師	麻酔科診療部長
41	清川 兼輔	医師	形成外科・顎顔面外科診療部長
42	力丸 英明	医師	形成外科・顎顔面外科診療部長
43	吉田 茂生	医師	眼科診療部長
44	門田 遊	医師	眼科診療部長
45	楠川 仁悟	医師	歯科口腔医療センター長
46	福重 哲志	医師	緩和ケアセンター長
47	松岡 秀洋	医師	総合健診センター
48	秋葉 純	医師	病理部長
49	中島 収	医師	臨床検査部長
50	高森 信三	医師	臨床研修センター長
51	鶴田 修	医師	メディカルセンター専任部長
52	山下 典雄	医師	臨床工学センター長
53	淡河 悦代	医師	放射線治療センター長
54	緒方 裕	医師	腫瘍センター専任部長
55	田中 法瑞	医師	画像診断センター長
56	松瀬 博夫	医師	リハビリテーション部長
57	牛島 高介	医師	保険診療管理部長
58	坂田 哲	事務	病院事務部長

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 ・日本医療機能評価機構 平成27年8月7日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ・クリニカルインディケータ（CI）を久留米大学病院のHPに掲載。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・消化器病センター（消化器内科、消化器外科）、循環器病センター（心臓血管外科、心臓・血管内科）、呼吸器病センター（呼吸器外科、呼吸器内科）を外来部門に設置している。 ・がん治療の診療方針の検討等を行っている。	